

2020年3月期 決算説明会

扶桑化学工業株式会社

2020年5月13日
東証第一部（4368）



I. 2020年3月期 決算概要

II. 事業の概況

■ ライフサイエンス事業

■ 電子材料および機能性化学品事業

III. 2021年3月期 業績予想

IV. Q&A

代表取締役社長
取締役 管理本部長

中野 佳信
杉田 真一

I . 2020年3月期決算概要

2020年3月期（累計期間）決算概要



(単位：億円)	当期実績	前年同期比			計画比		
		前期実績	増減額	増減率	公表計画	乖離額	乖離率
売上高	413.1	420.7	△7.6	△1.8%	430.0	△16.8	△3.9%
営業利益	88.3	92.8	△4.5	△4.9%	75.0	+13.3	+17.7%
経常利益	89.5	98.5	△9.0	△9.1%	76.0	+13.5	+17.8%
当期純利益	70.1	68.8	+1.3	+1.9%	52.0	+18.1	+34.9%
償却前営業利益	133.6	123.2	+10.3	+8.4%	126.0	+7.6	+6.1%
一株当たり 当期純利益	197.5 円	193.8 円	+3.7 円	+1.9%	146.4 円	+51.1 円	+34.9%

＊ 償却前営業利益・当期純利益、ともに過去最高を更新

セグメント別売上高・営業利益【前期比】



(単位：億円)		当期実績	前期実績	前年同期比	
				増減額	増減率
ライフサイエンス事業	売上高	241.2	252.0	△10.8	△4.3%
	営業利益	43.2	35.1	+8.1	+23.2%
電子材料および 機能性化学品事業	売上高	171.9	168.6	+3.2	+1.9%
	営業利益	57.4	69.6	△12.1	△17.4%
(調整額)		△12.4	△11.9	△0.5	—
営業利益（全社）		88.3	92.8	△4.5	△4.9%

2020年3月期 四半期別の業績



(単位：億円)		1Q (4-6月)	2Q (7-9月)	3Q (10-12月)	4Q (1-3月)	通期 (4-3月)
売上高	当期	99.7	103.5	109.3	100.4	413.1
	前期	106.8	106.2	110.9	96.7	420.7
ライフサイエンス事業	当期	61.1	62.1	61.7	56.1	241.2
	前期	64.1	64.5	65.7	57.5	252.0
電子材料および 機能性化学品事業	当期	38.6	41.4	47.5	44.2	171.9
	前期	42.6	41.6	45.1	39.1	168.6
営業利益	当期	21.2	22.3	25.6	18.9	88.3
	前期	26.5	25.9	22.4	17.9	92.8
ライフサイエンス事業	当期	11.4	12.1	12.0	7.6	43.2
	前期	7.5	8.6	9.9	8.9	35.1
電子材料および 機能性化学品事業	当期	12.8	13.3	16.8	14.4	57.4
	前期	21.9	20.3	15.6	11.7	69.6
(調整額)	当期	△3.0	△3.0	△3.2	△3.1	△12.4

セグメント別売上高・営業利益【過去3年】

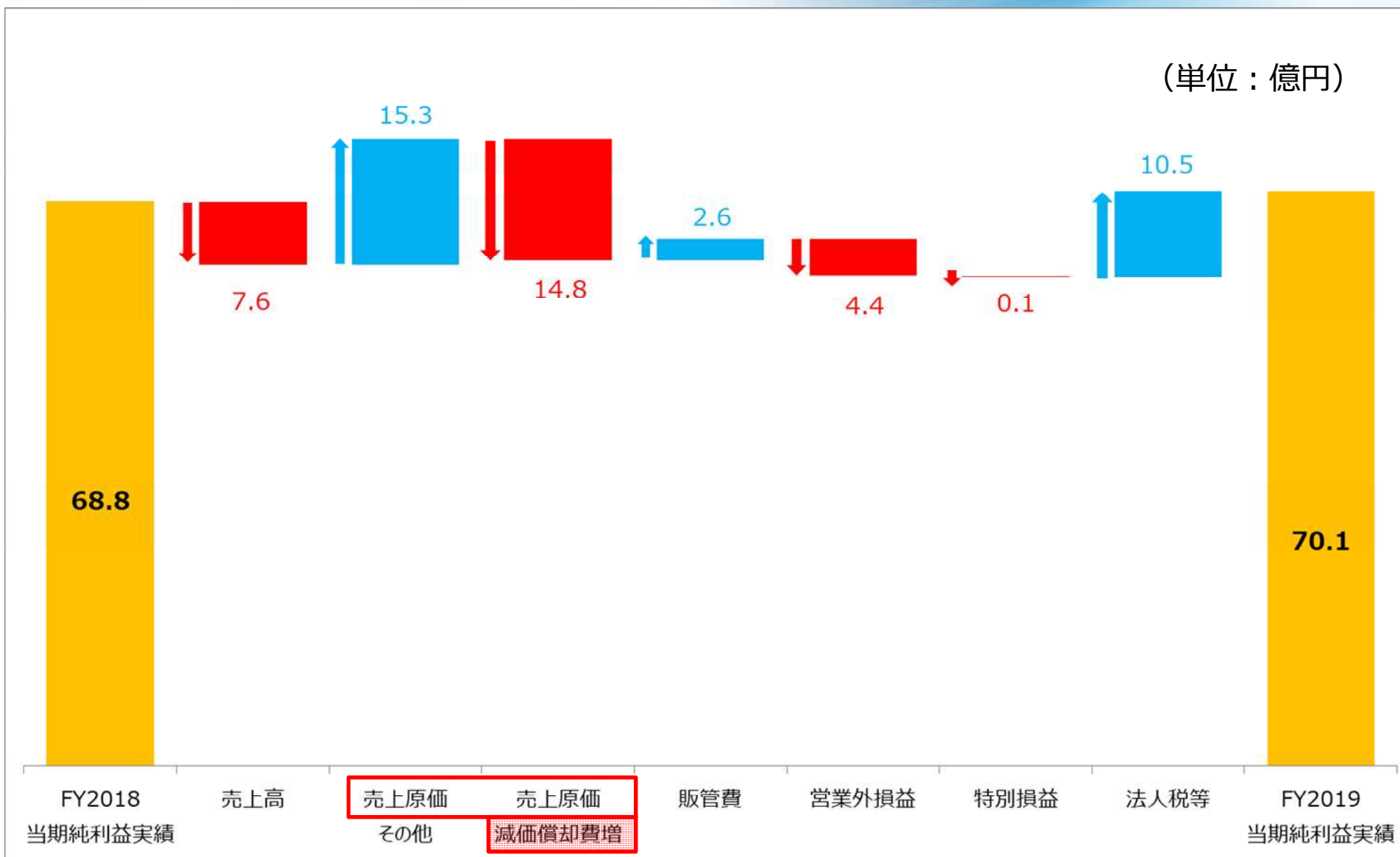


(単位：億円)	'18/3期	'19/3期	'20/3期
売上高	402.2	420.7	413.1
ライフサイエンス事業	243.1	252.0	241.2
電子材料および 機能性化学品事業	159.0	168.6	171.9
営業利益	105.3	92.8	88.3
ライフサイエンス事業	33.8	35.1	43.2
電子材料および 機能性化学品事業	82.8	69.6	57.4
調整額	△11.2	△11.9	△12.4
売上高営業利益率	26.2%	22.1%	21.4%
ライフサイエンス事業	13.9%	13.9%	17.9%
電子材料および 機能性化学品事業	52.1%	41.3%	33.4%

2020年3月期 当期純利益増減要因



(単位：億円)



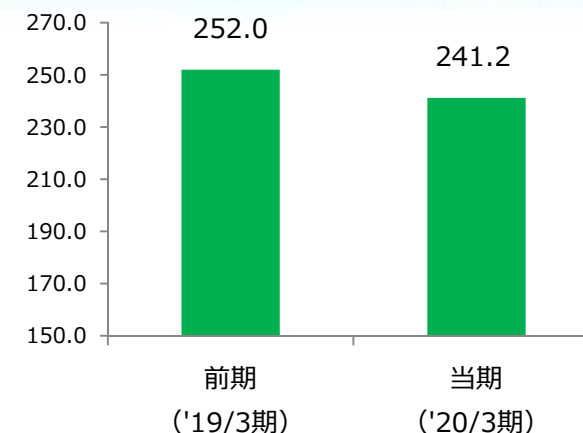
セグメント別売上高・営業利益



ライフサイエンス事業

(単位：億円)	当期実績	前期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	241.2	252.0	△10.8	△4.3%
営業利益	43.2	35.1	+8.1	+23.2%

売上高



売上高

<増加要因>

- ・リンゴ酸の輸出販売好調
(アジア大手飲料メーカーでのシェア拡大、新規国での販売開始)
- ・クエン酸類の販売拡大
(新規ユーザー獲得)

<減少要因>

- ・有機酸全般の工業用途向け販売低調
(電子部品関連業界(めっき、洗浄剤)の低調、暖冬による浴用剤需要低下)
- ・ビタミンC類の市場価格下落
- ・原料安に伴う無水マレイン酸販売価格下落

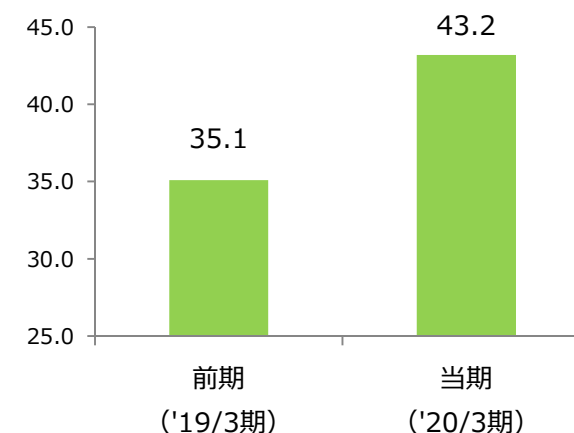
営業利益

<増加要因>

- ・原料原価の低下
- ・無水マレイン酸・フマル酸の価格改定
- ・医薬品関連ビジネスの収益改善
- ・海外グルコン酸ビジネスの販売好調

* ベンゼン価格 《ACP4－3月平均》
【2018年】850\$/MT
【2019年】634\$/MT

営業利益

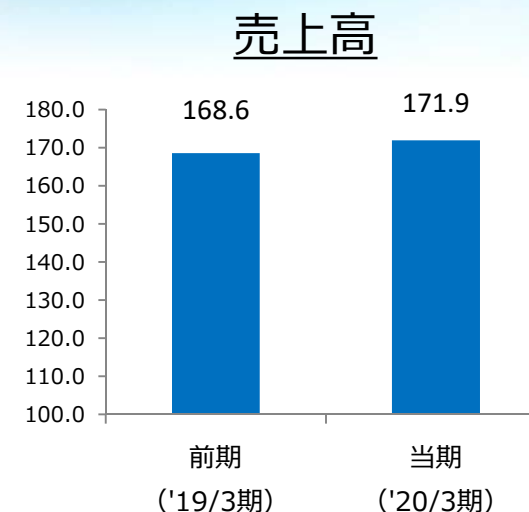


セグメント別売上高・営業利益



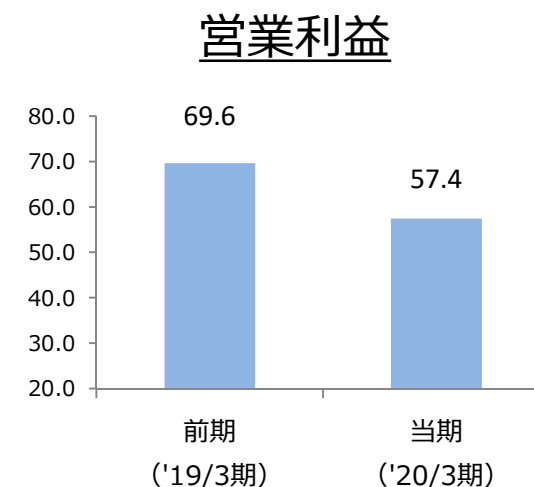
電子材料および機能性化学品事業

(単位：億円)	当期実績	前期実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	171.9	168.6	+3.2	+1.9%
営業利益	57.4	69.6	△12.1	△17.4%

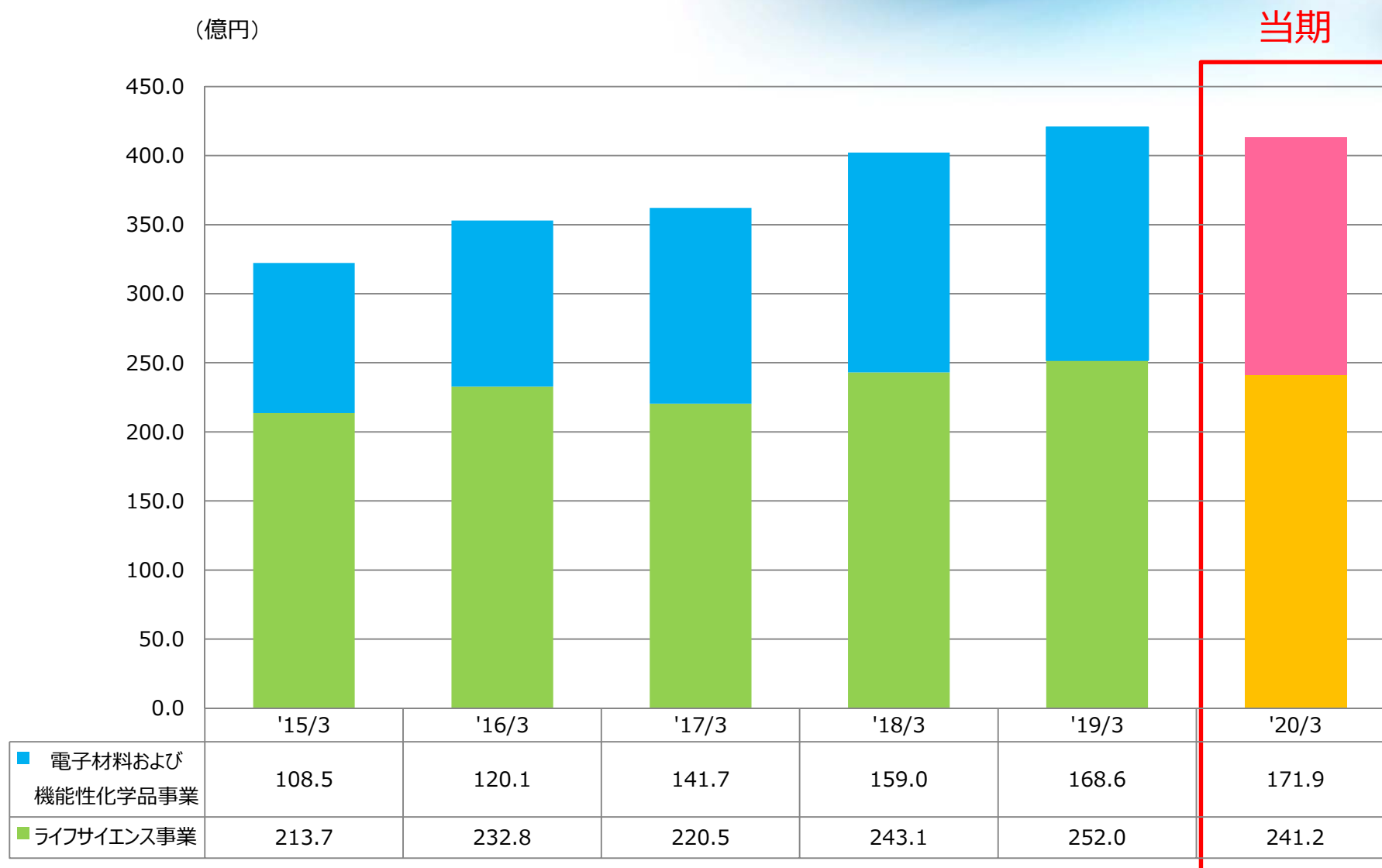


売上高
<増加要因> ・最先端CMP用途での採用増 <減少要因> ・半導体市場の調整局面 ・機能性化学品事業の成長鈍化

営業利益
<増加要因> ・生産数量増による製造経費のコストダウン <減少要因> ・投資による減価償却費増 ・新設ライン洗浄に伴う水光熱費増



セグメント別売上高推移

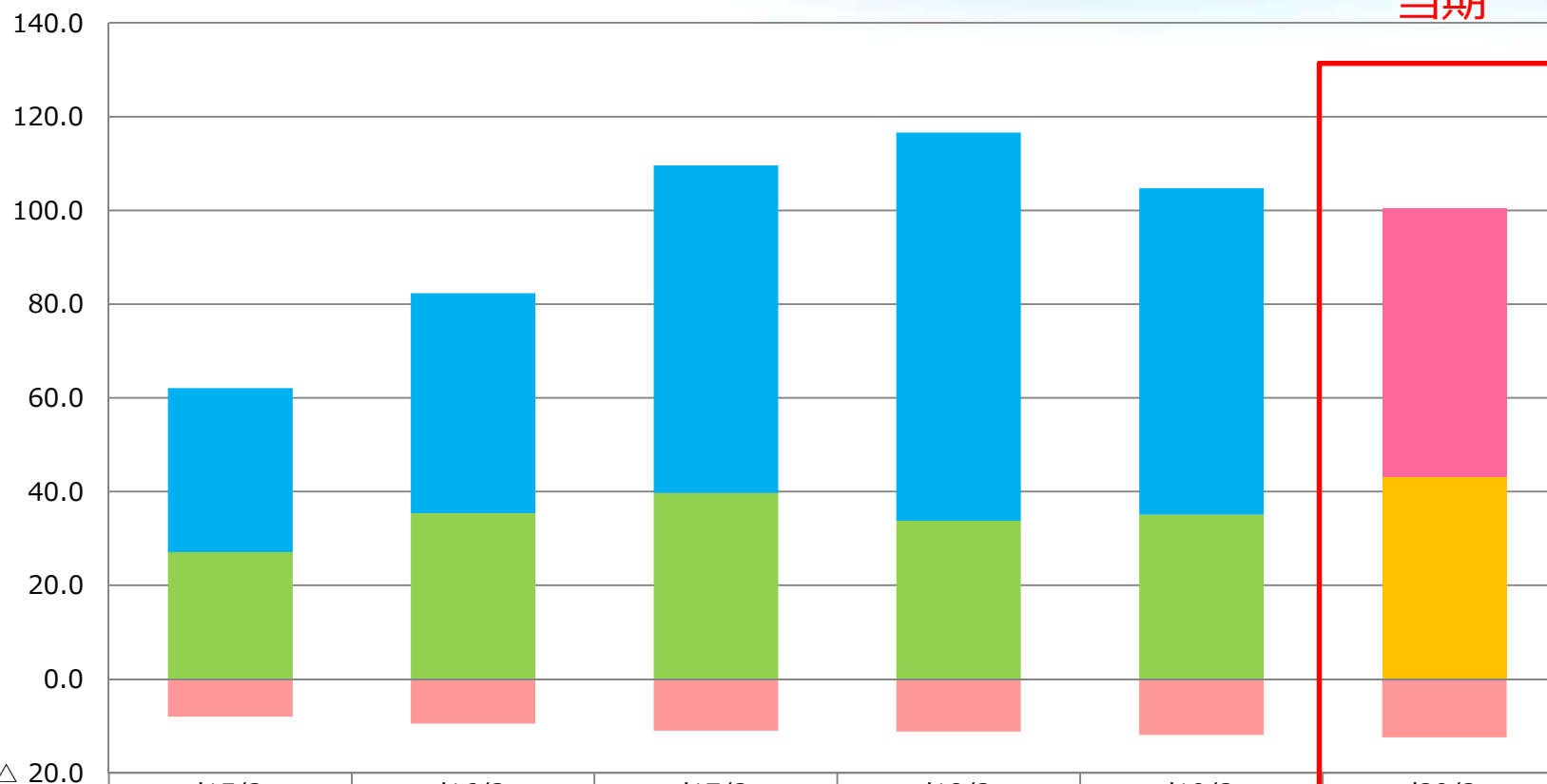


セグメント別営業利益推移



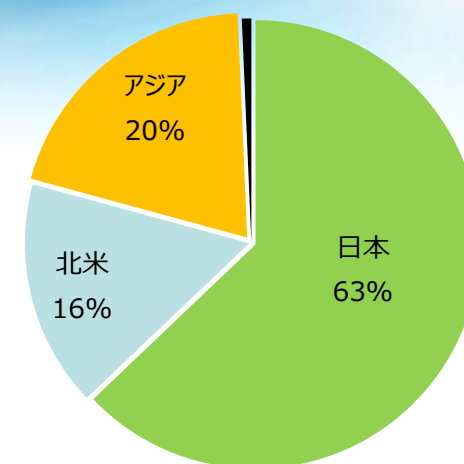
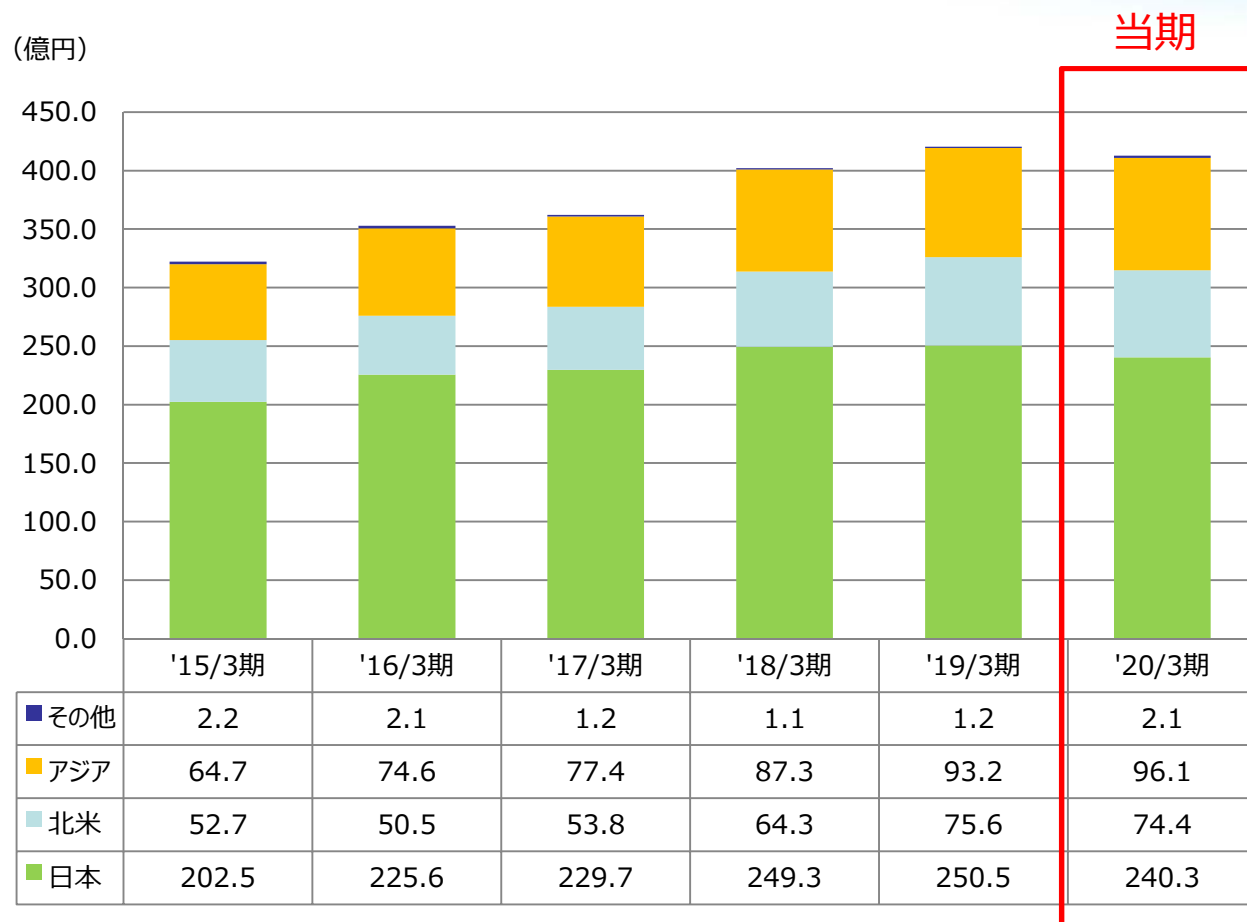
(億円)

当期

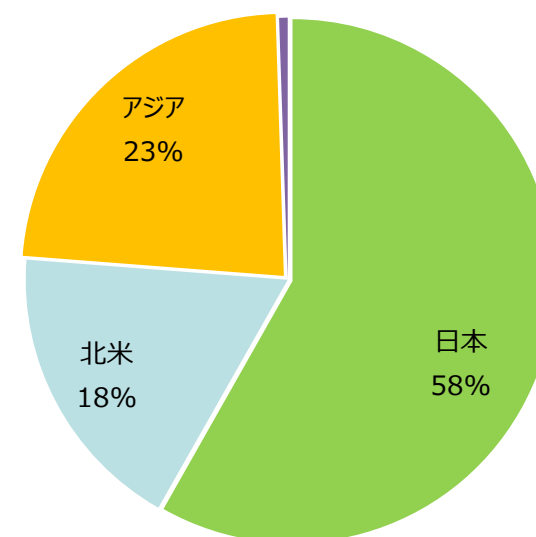


- 電子材料および機能性化学品事業
- ライフサイエンス事業
- (調整額)

海外売上高推移

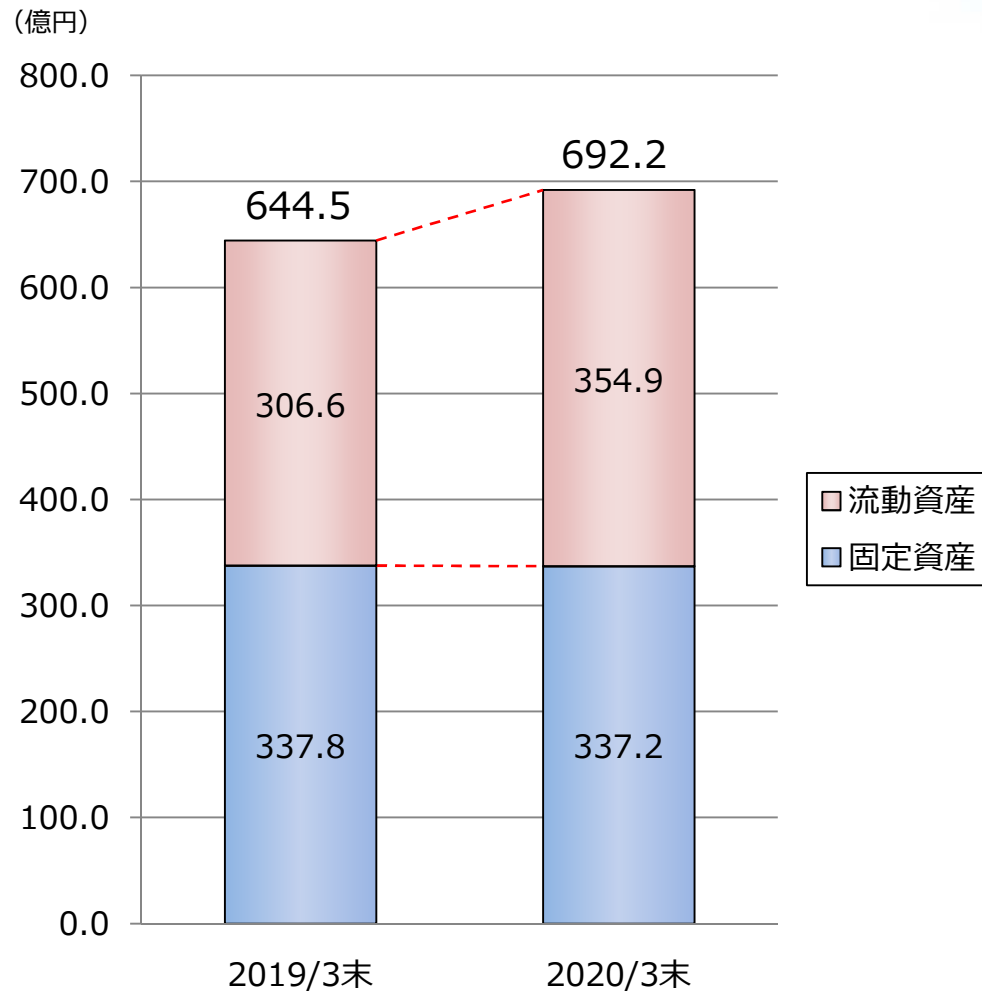


'15/3期



'20/3期

資産の状況



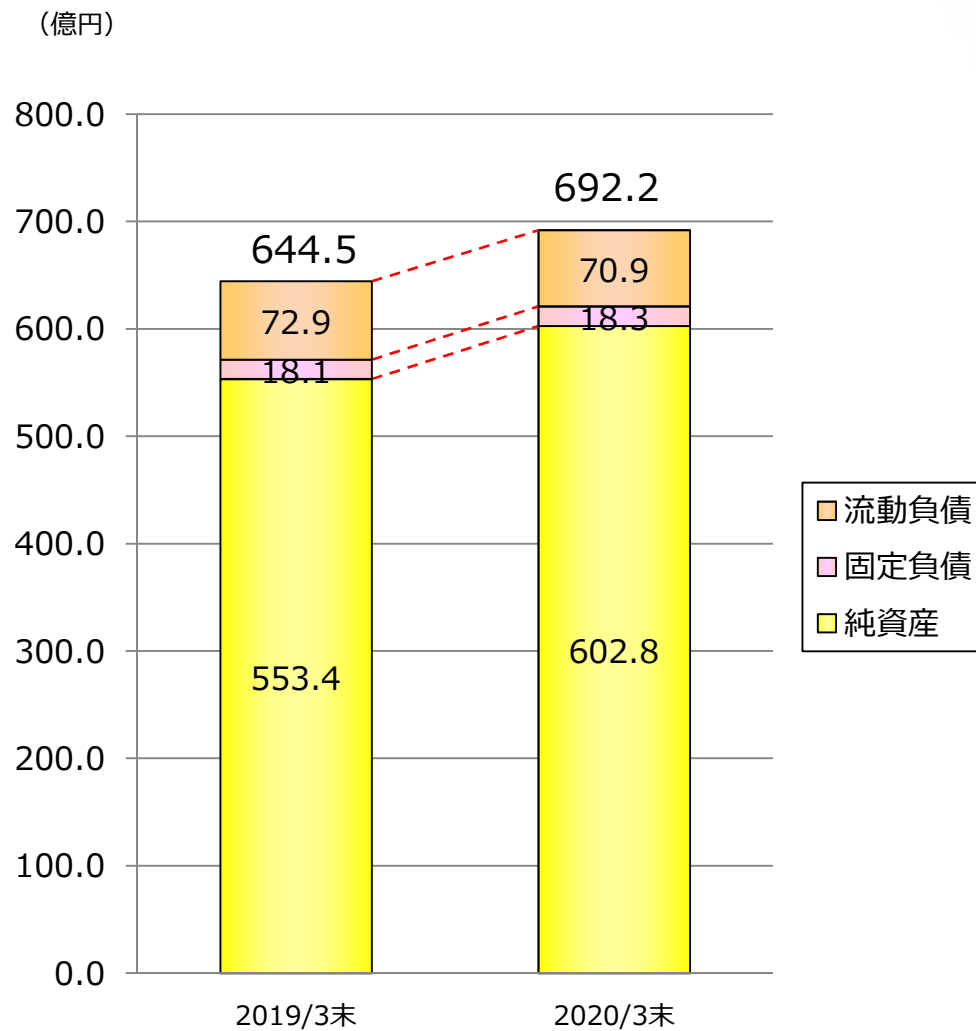
流動資産（前期末比 +48.3億円）

- ・ 現預金の増加

固定資産（前期末比 △0.6億円）

- ・ 減価償却による有形固定資産の減少
- ・ 建設仮勘定の減少
（主に鹿島リンゴ酸設備の各固定資産勘定への振替）
- ・ 繰延税金資産の増加

負債・純資産の状況



流動負債（前期末比 △2.0億円）

- ・ 未払金の減少

固定負債（前期末比 +0.2億円）

純資産（前期末比 +49.4億円）

- ・ 利益剰余金の増加

キャッシュ・フロー計算書



(億円)

	前期 ('19/3)	当期 ('20/3)
営業活動による キャッシュ・フロー	81.4	119.3
投資活動による キャッシュ・フロー	△153.5	△43.2
財務活動による キャッシュ・フロー	△16.3	△16.4
現金及び現金同等物 に係る換算差額	1.4	△1.1
現金及び現金同等物 の増加額	△87.0	58.5
現金及び現金同等物 の期首残高	189.3	102.2
現金及び現金同等物 の期末残高	102.2	160.8

営業活動によるキャッシュ・フロー

- ・ 減価償却費の増加
- ・ 税金等調整前当期純利益の計上

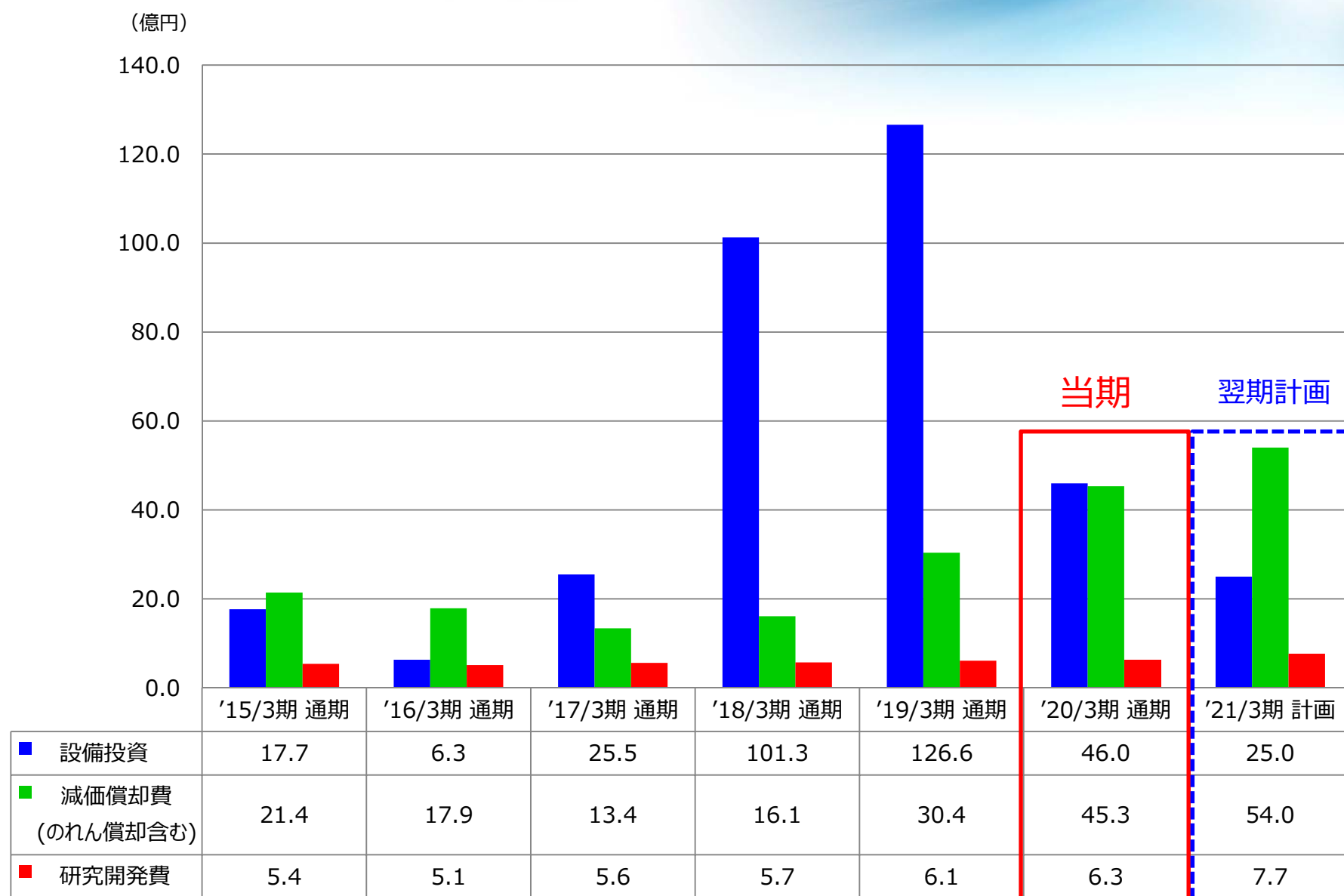
投資活動によるキャッシュ・フロー

- ・ 有形固定資産の取得

財務活動によるキャッシュ・フロー

- ・ 配当金の支払い

設備投資・減価償却費・研究開発費推移

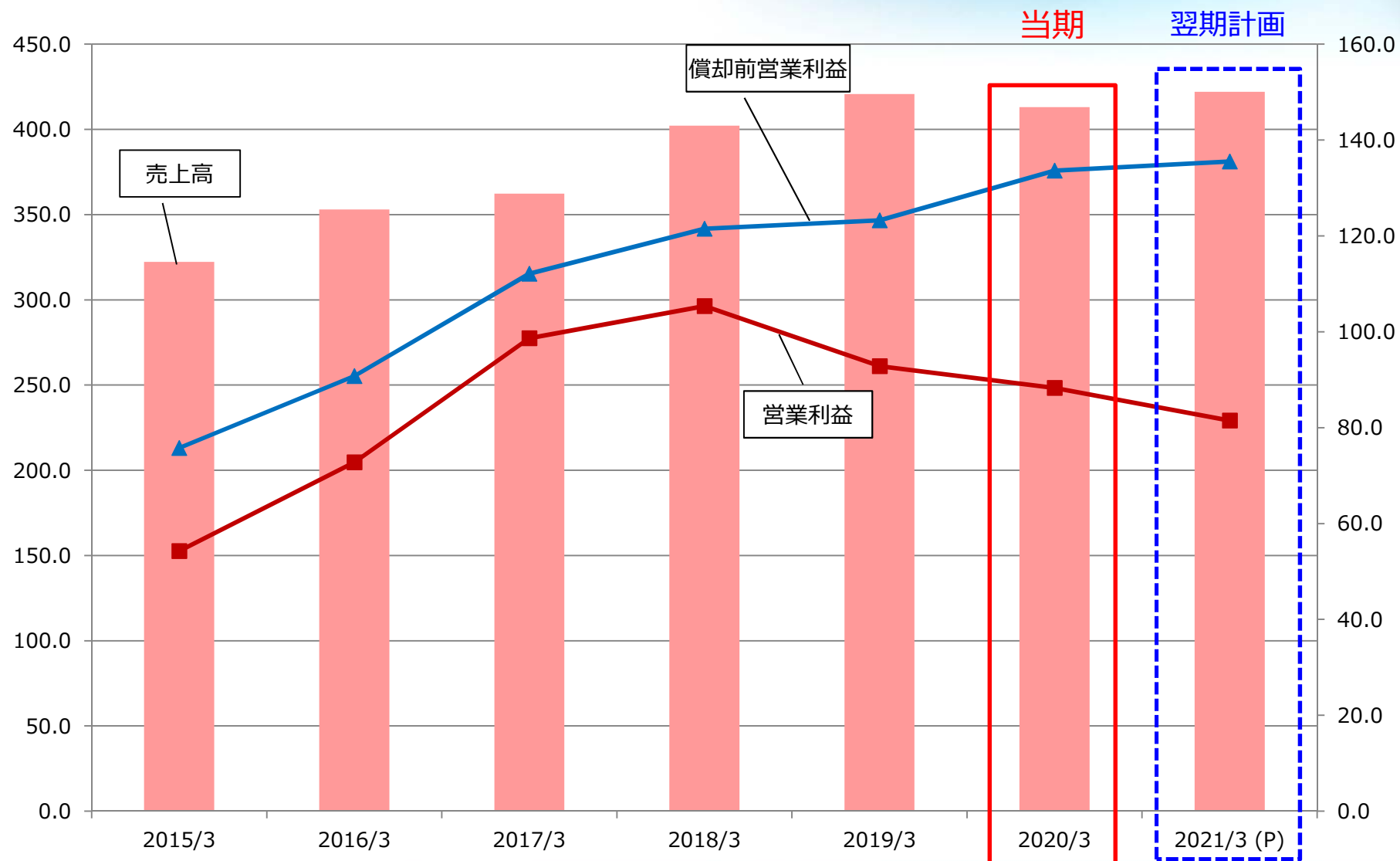


償却前営業利益

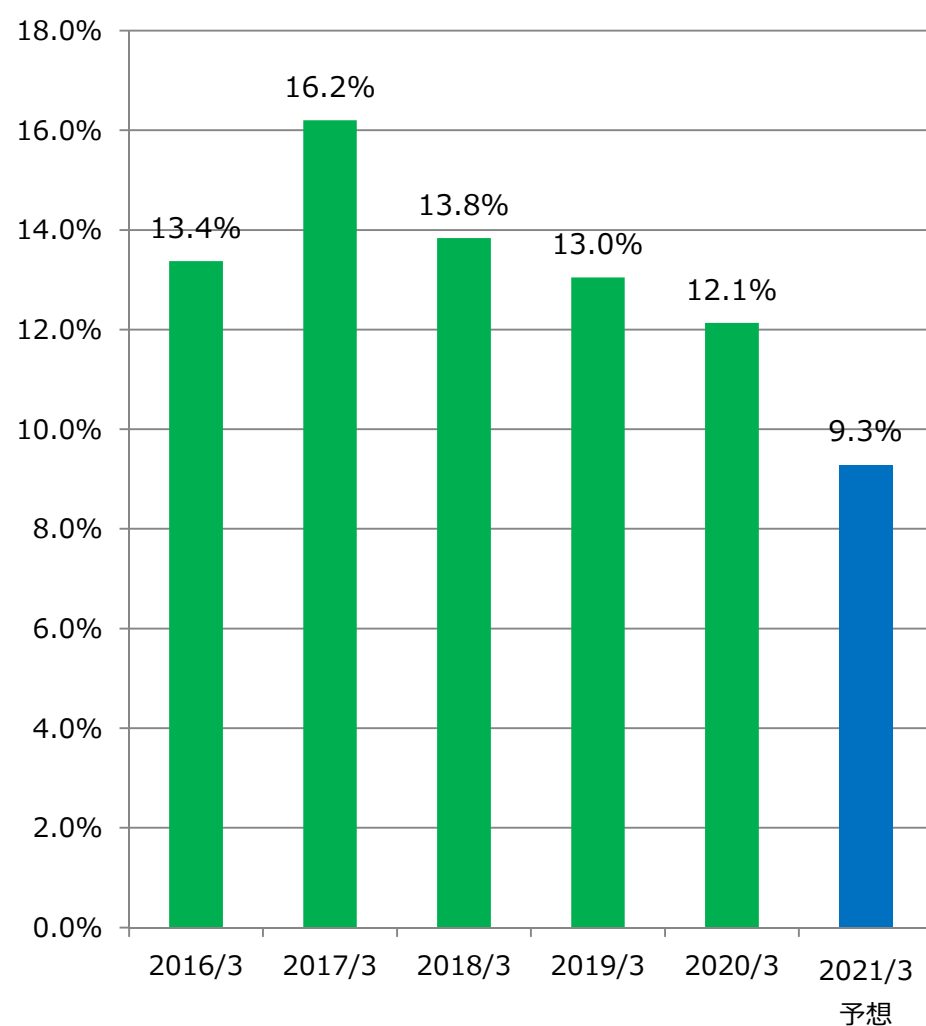


(売上高／単位：億円)

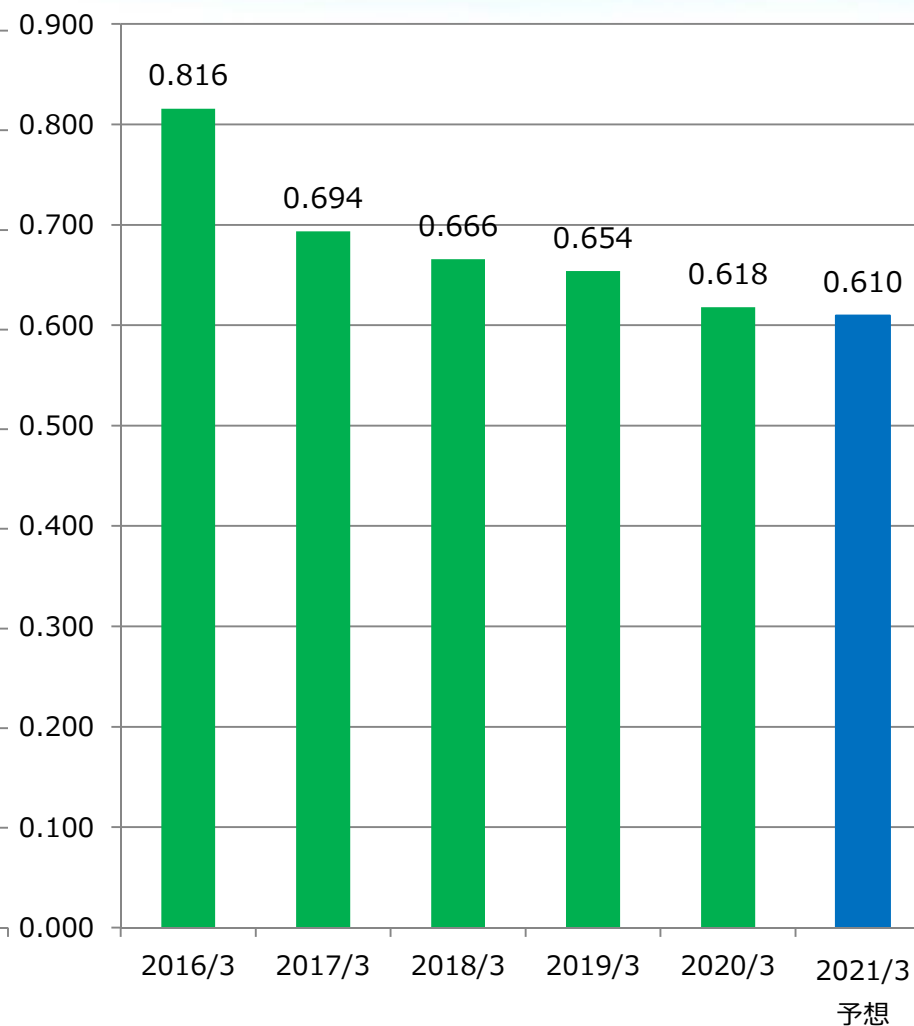
(営業利益/償却前営業利益)
(単位：億円)



ROE (%)



総資産回転率



Ⅱ．事業の概況

ライフサイエンス事業



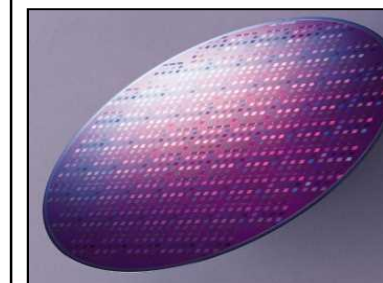
ライフサイエンス 事業

- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- 無水マレイン酸
- フマル酸類
- ビタミンC類
- イタコン酸
- 食品製剤類
- 化成品および製剤
- その他果実酸
(コハク酸類、乳酸類、酒石酸類)

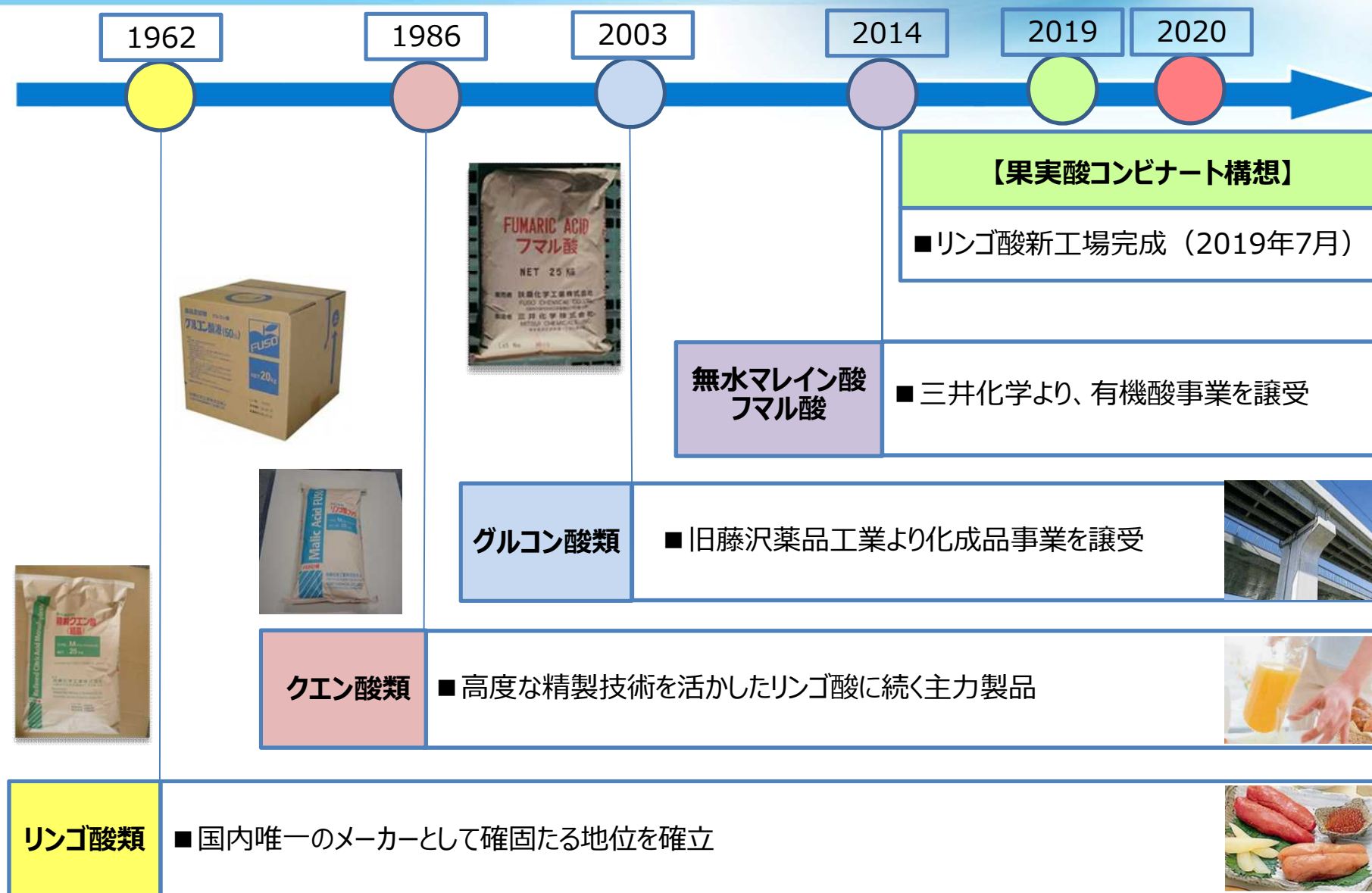


電子材料 および 機能性化学品 事業

- シリカ関連誘導品
 - ・超高純度コロイダルシリカ
 - ・高純度シリカナノパウダー
 - ・高純度オルガノシリカゾル
 - ・アルキルシリケート
- 高純度果実酸
- ファインケミカル
- その他機能性化学品



事業内容 <金メダル製品増強への歩み>



I. 果実酸コンビナート構想の実現

II. 生産体制の再構築及び設備増強

III. 次世代新製品の早期戦列化

IV. グローバル展開

I．果実酸コンビナート構想の実現



(1) リンゴ酸（鹿島/新工場）

三井化学株式会社から有機酸設備を譲受

- ◆2017年 11月：鹿島事業所設立
- ◆2018年 2月～：リンゴ酸新工場 建設
- ◆2019年 7月 ：竣工式
- ◆2019年 8月～：水運転、実液試運転開始
- ◆2020年 1月 ：連続運転開始

- ・国際認証の取得（FSSC22000、HALAL、Kosher）、米国FDA登録
- ・新工場フル稼働の早期実現
- ・国内外顧客の品質評価、認定の促進



新工場品への
切替え

海外顧客の
新規獲得

既存顧客の
シェア拡大

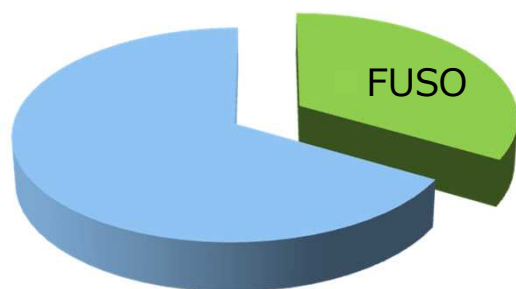


I．果実酸コンビナート構想の実現



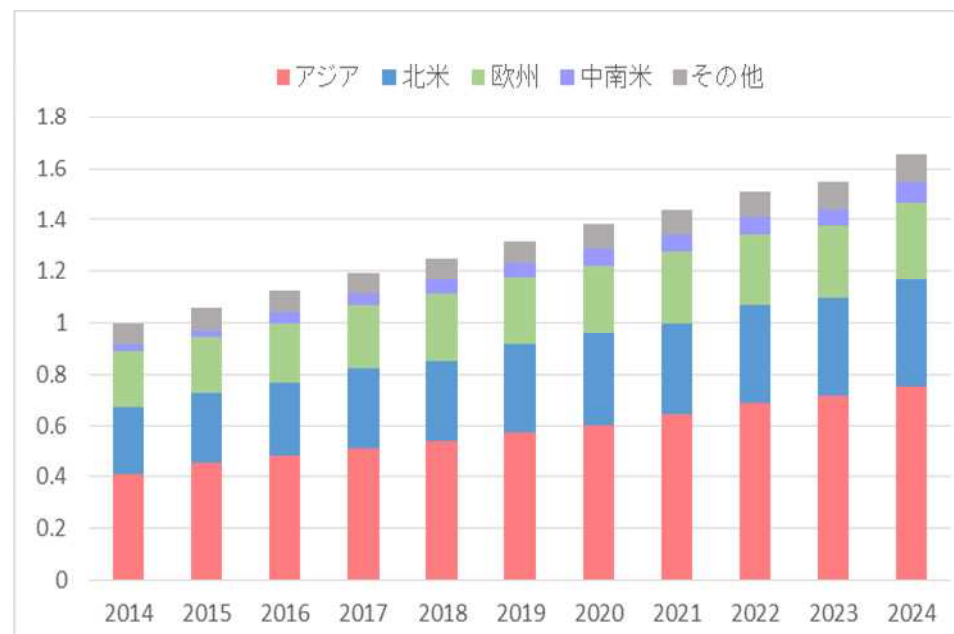
●世界市場

リンゴ酸市場（アジア）



(当社推定：35,000トン)

地域別市場推移



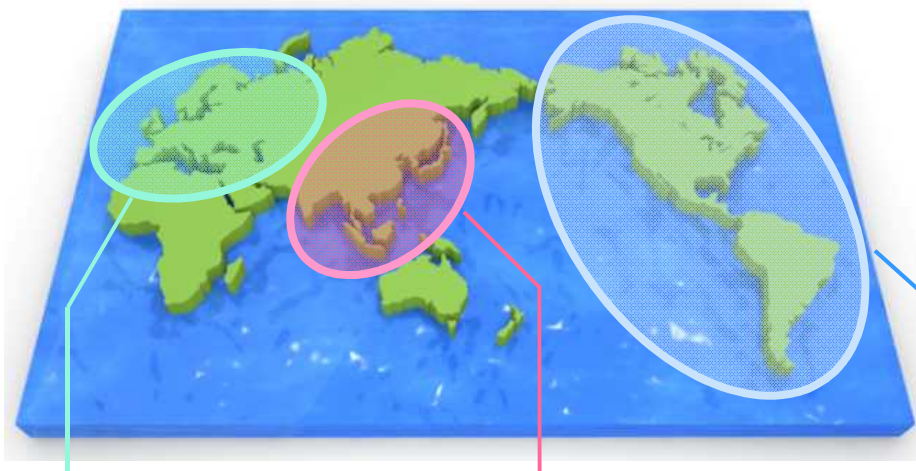
* 2014年の世界市場を1として

- 世界市場は年率3%～5%以上の成長 ⇒ 近い将来10万トン/年
- アジア市場が世界市場の伸びの半分

I. 果実酸コンビナート構想の実現



● 販売計画



TOTAL

(MT/Y)

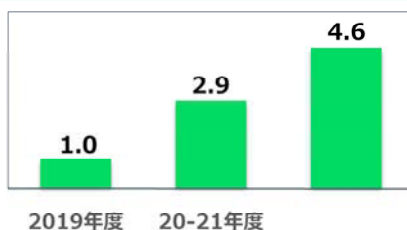
10,600 ('19年度実績)

14,000 ('20-'21年度)



18,500 (MT/Y)

Europe & other areas



Asia



N. & S. America



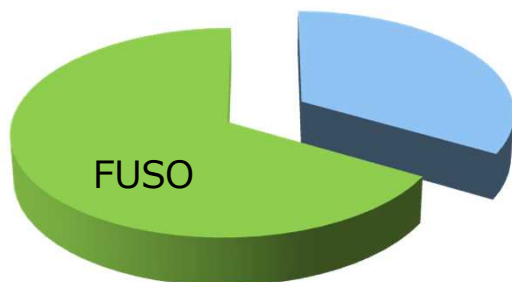
- ・伸びるアジア市場でのシェア拡大
- ・歴史ある各国代理店の販売再本格化、新規国での販売拡大
- ・サンプルワーク開始

I．果実酸コンビナート構想の実現



(2) フマル酸

フマル酸市場（国内）



(当社推定：20,000トン)



2018年度

- ・日本触媒：事業から撤退
→扶桑のシェア拡大
- ・フマル酸プラント：フル稼働

2019年度

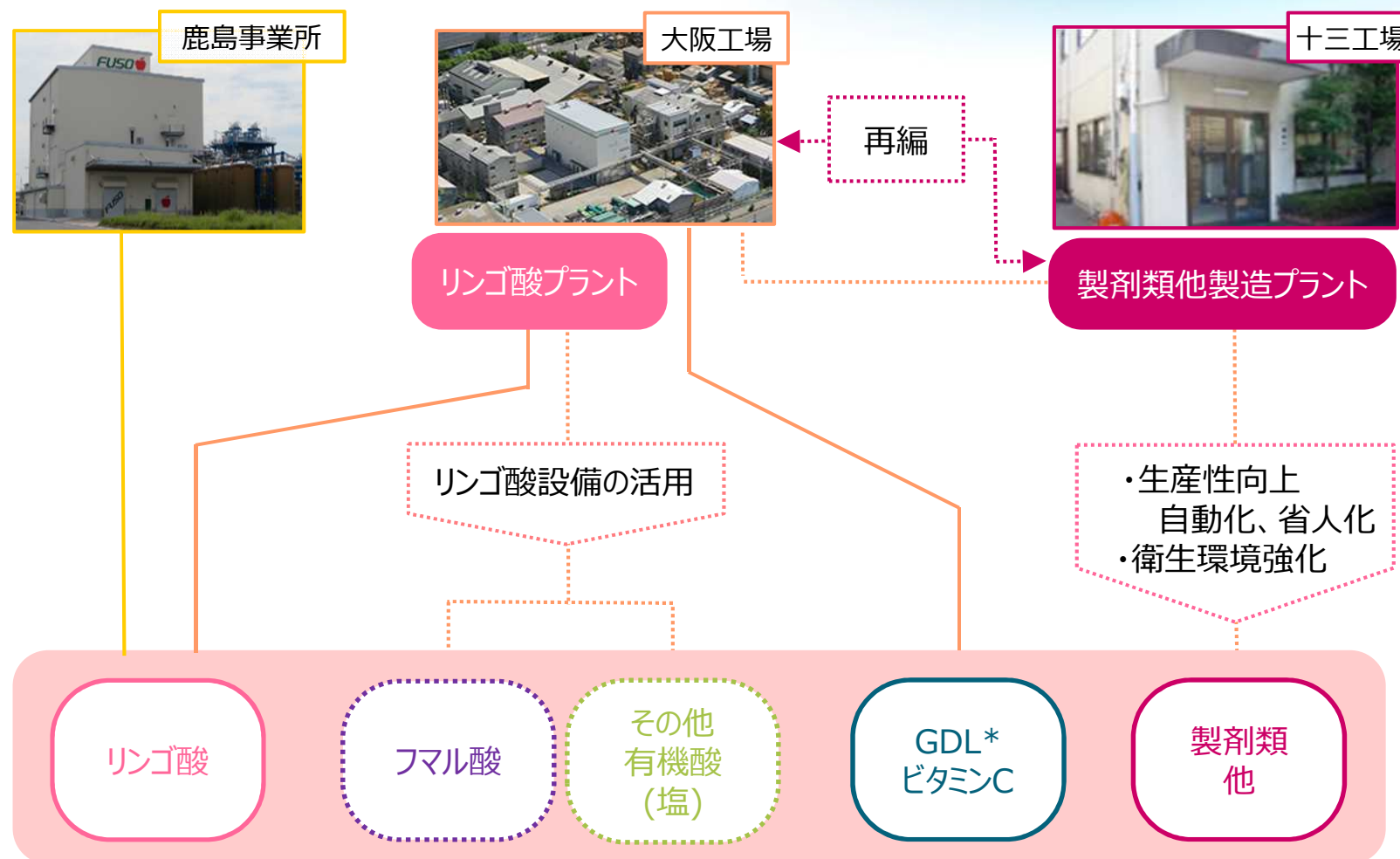
- ・暖冬により入浴剤用途向け低調
- ・フマル酸プラント：生産プロセス見直しによる収率向上

2020年度～

フマル酸市場：拡大傾向

- ・大阪工場リンゴ酸プラントの有効活用による生産能力の拡大

Ⅱ．生産体制の再構築及び設備増強



◆ 果実酸類の総生産・販売数量アップ ◆

《実戦》現在製造品目
《点線》将来構想品目
* グルコデルタラクトン

Ⅲ. 次世代新製品の早期戦列化

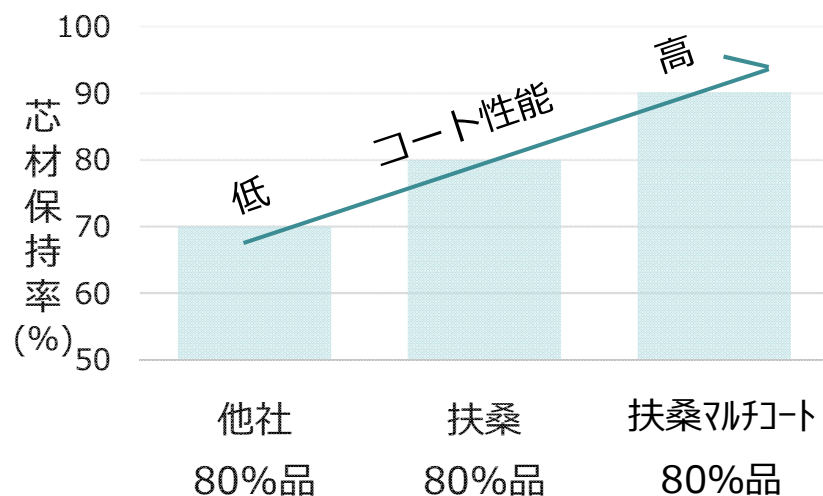


● 油脂コート有機酸

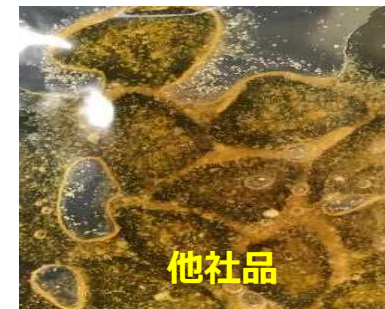
2020年度中：生産設備導入・製品化、販売開始

- ★優れたコート性能
- ★様々な顧客ニーズ（コート性能、膜剤、芯材等）への対応

水中におけるコートGDL溶出試験



グミの耐酸耐湿性試験



Ⅲ. 次世代新製品の早期戦列化

● バイオスティミュラント（ストレスフリー製剤）

- 植物試験(自社内/委託)による耐暑性に対する効果/再現性の確認、品目拡充

効果/再現性の確認：芝、ホウレンソウ

品目拡充：レタス、キャベツ、花卉/果樹類

- 対象ストレス種の拡充

塩害（酸化）ストレス

- 拡販活動の推進

芝：耐暑性



処理区

無処理区

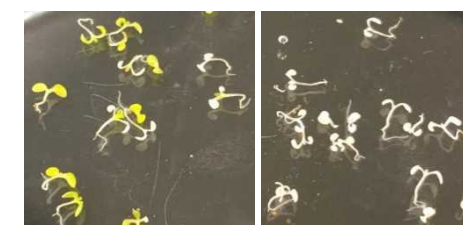
ホウレンソウ:耐暑性



処理区

無処理区

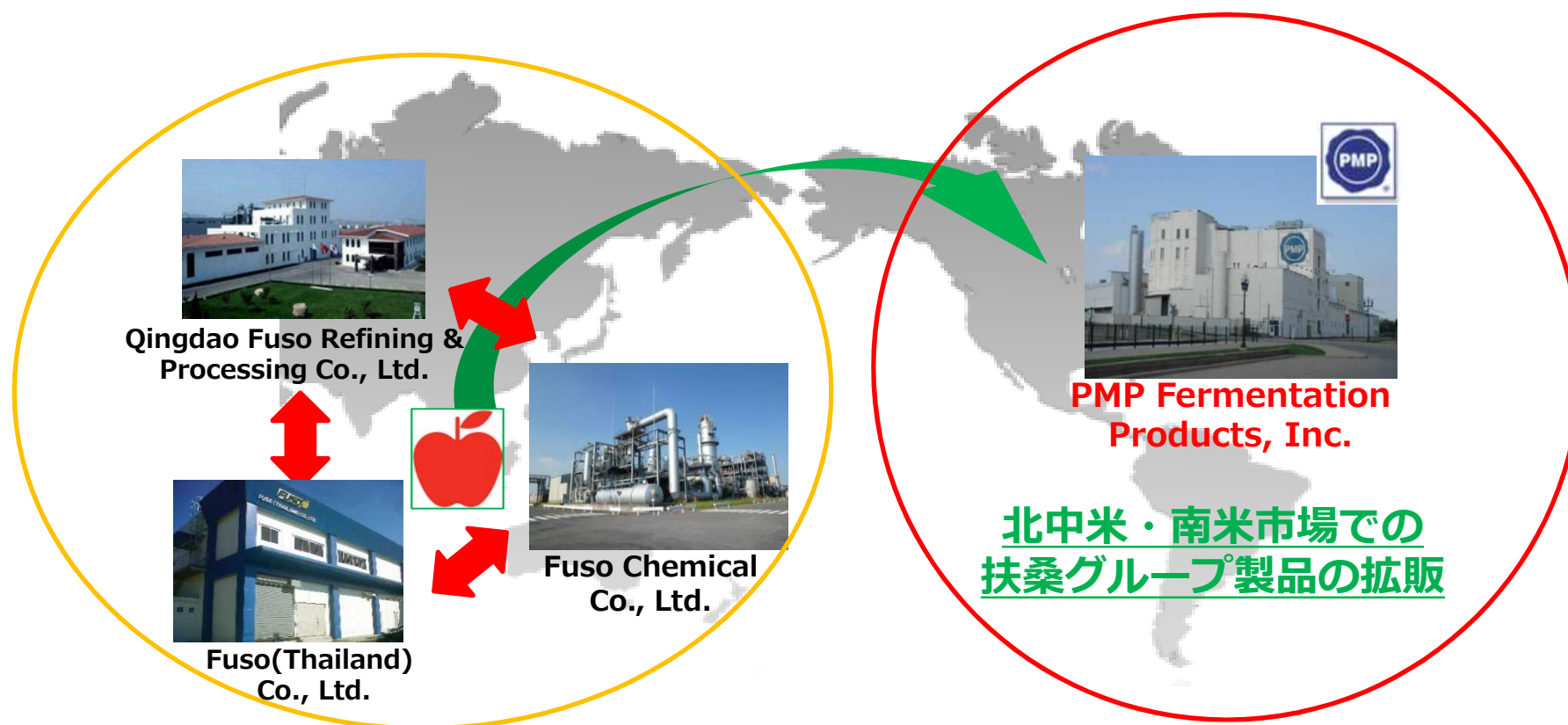
シロイヌナズナ:塩害耐性



処理区

無処理区

扶桑グループの連携により、ビジネスチャンス を獲得する



IV. グローバル展開



アジア市場において
One-Stop食添製剤
メーカーとして積極拡大

Asia

青島扶桑精製加工有限公司
FUSO(THAILAND)CO., LTD.

①対象品目の拡大

②取扱い品目の拡大

③販売地域の拡大



Qingdao Fuso Refining & Processing Co., Ltd.

- ◆ 高付加価値品へのシフト
- ◆ 新規食品添加物製剤の開発・販売
- ◆ 生産設備の自動化促進

Fuso(Thailand) Co., Ltd.

- ◆ 扶桑グループとの連携
高付加価値有機酸の販売
- ◆ 日系及びタイローカルの手食品会社
における新規採用
- ◆ タイ周辺国への輸出

IV. グローバル展開



北米

PMP Fermentation Products, Inc.

PMP Fermentation Products, Inc.

◆ 2018年11月：アンチダンピング訴訟に勝訴

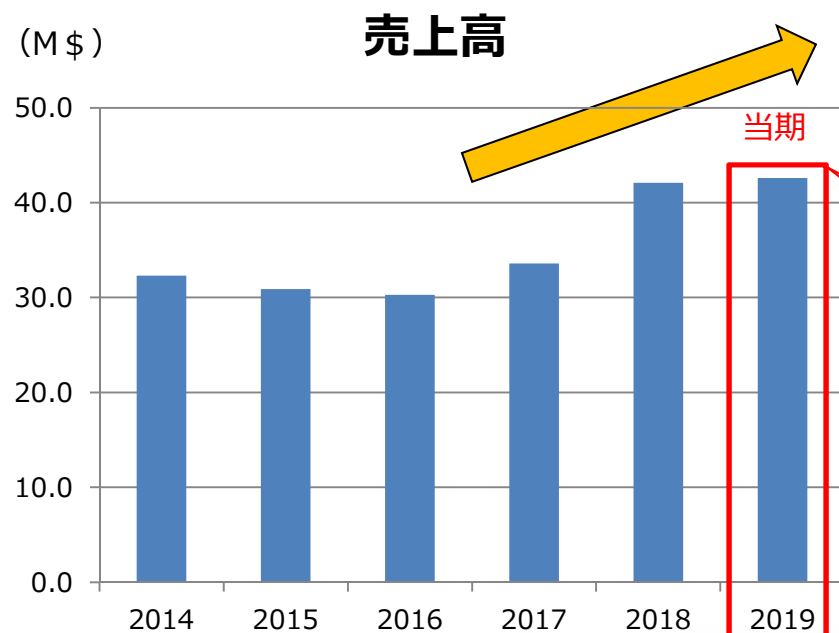


中国品のシェア獲得・市場も拡大傾向



◆ 2019年4月～：製造能力段階的アップ

◆ 2020年～：リンゴ酸販売強化



2020年3月期

過去最高の売上高・営業利益を達成

* 2022年度 目標

I. 売上高

- ◆ 2019年度に対し20%増収（300億円を目指す。）

II. 営業利益

- ◆ 2019年度レベルに回復（44億円を目指す。）

III. 償却前利益

- ◆ 最高益を更新（45億円を目指す。）

電子材料および 機能性化学品事業



ライフサイエンス 事業



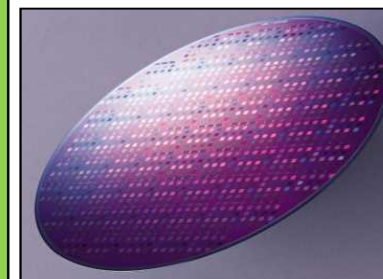
- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- 無水マレイン酸
- フマル酸類
- 乳酸類
- イタコン酸
- ビタミンC類
- 食品製剤類
- 化成品および製剤
- その他果実酸



電子材料 および 機能性化学品 事業



- シリカ関連誘導品
 - ・超高純度コロイダルシリカ
 - ・高純度シリカナノパウダー
 - ・高純度オルガノシリカゾル
 - ・アルキルシリケート
- 高純度果実酸
- ファインケミカル
- その他機能性化学品



I. 半導体研磨：

重点顧客との取組み強化、生産効率最大化、新規砥粒開発推進

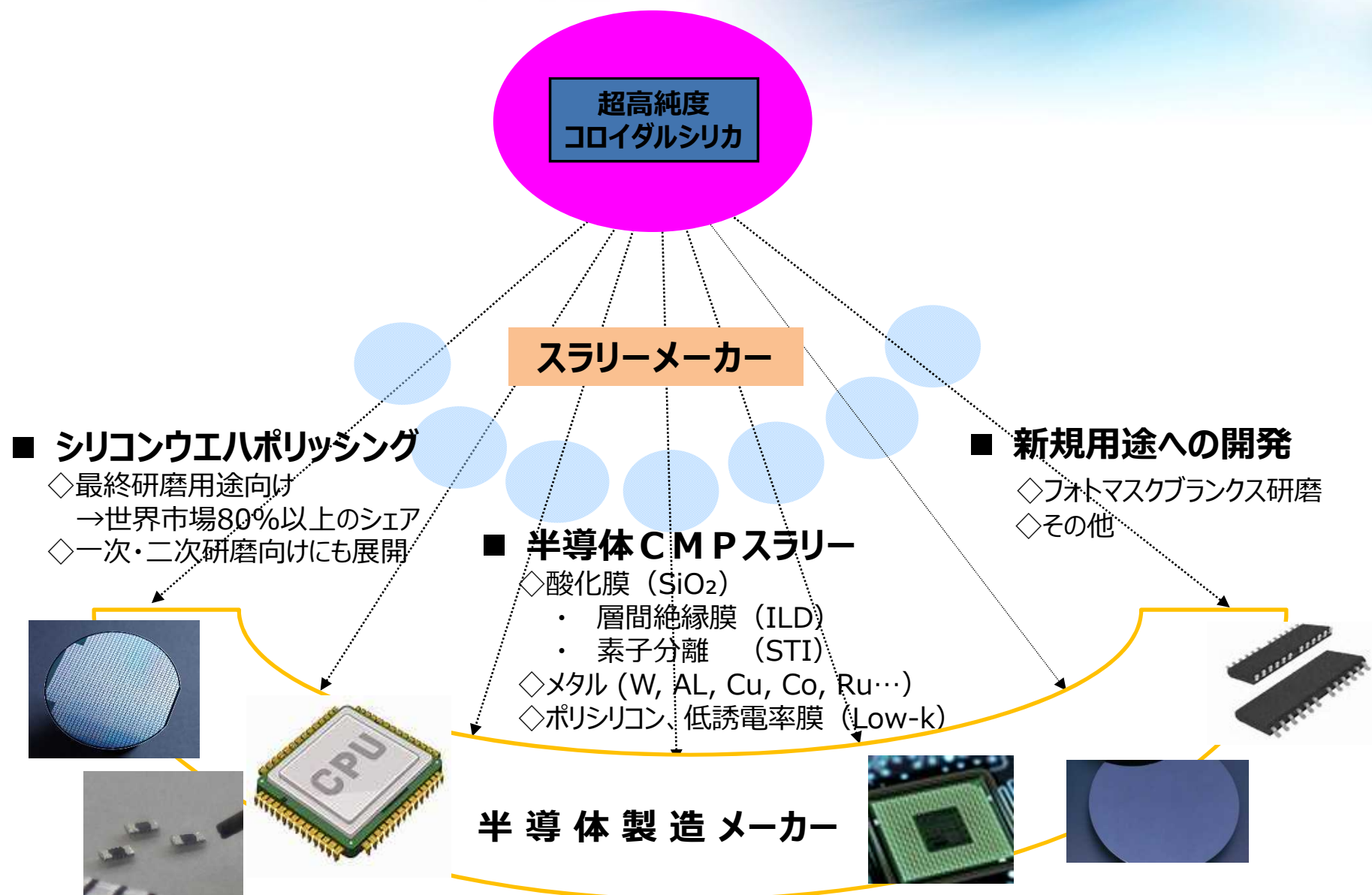
II. 生産・研究・品質保証体制堅実化

顧客要求要望事項への迅速な対応、分析精度・効率向上、コスト削減

III. 機能材料：

ナノパウダーのビジネス拡大、中空ナノシリカ上市、生産体制の再構築

I. 半導体研磨

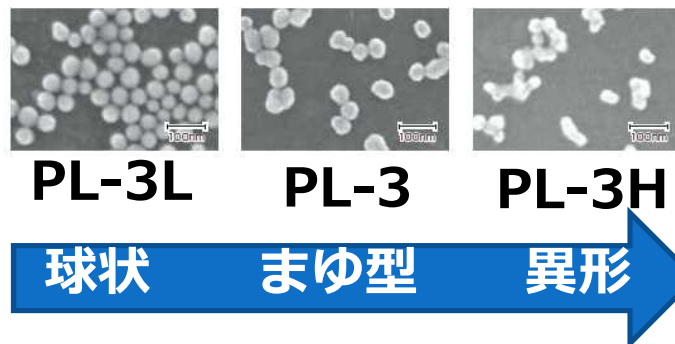
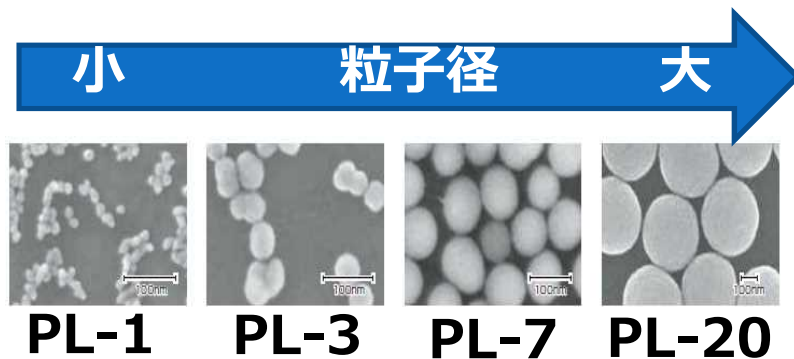


Ⅱ．生産・研究・品質保証体制堅実化

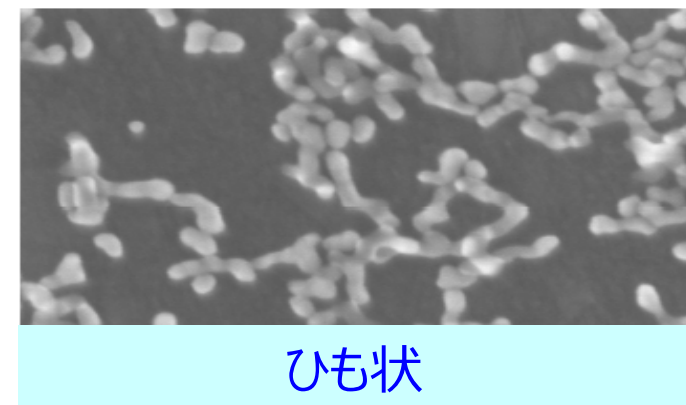
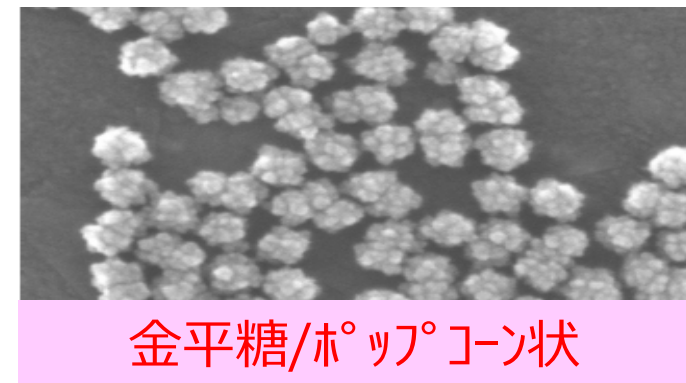


コロイダルシリカの粒子制御技術

1. 粒子径及び会合度制御技術



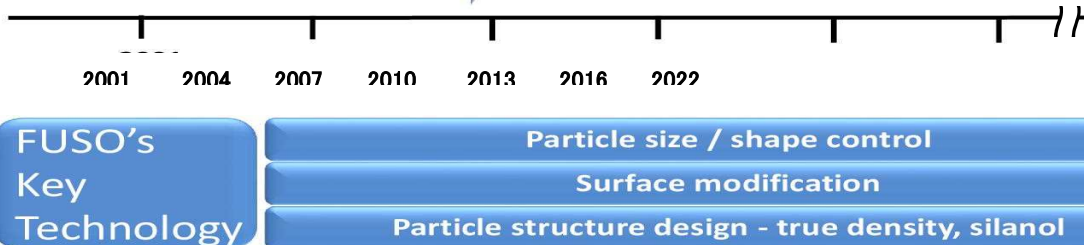
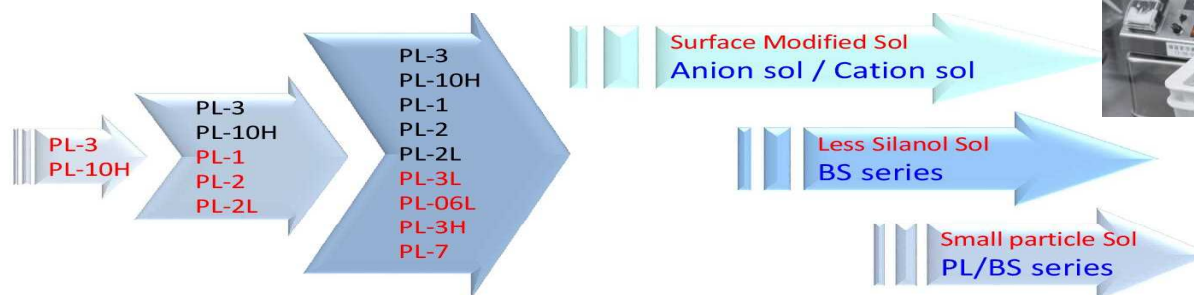
2. 粒子形状制御技術



製造技術	研究開発	品質保証
最先端設備導入 ■ シングルナノ配線幅に対応した粒子径及び粒度分布制御 ■ 高品質、高効率、低コスト	新コンセプト粒子開発 ■ 新規配線素材Co,Ru対応 ■ 低ディフェクト ■ 高研磨レート ■ プロセス技術開発	最新鋭の評価機器 ■ 小粒子粒度分布、表面状態の測定 ■ 顧客評価との相関性、精度向上



先端コロイダルシリカの進化



半導体業界の動向（ウエハ数量）



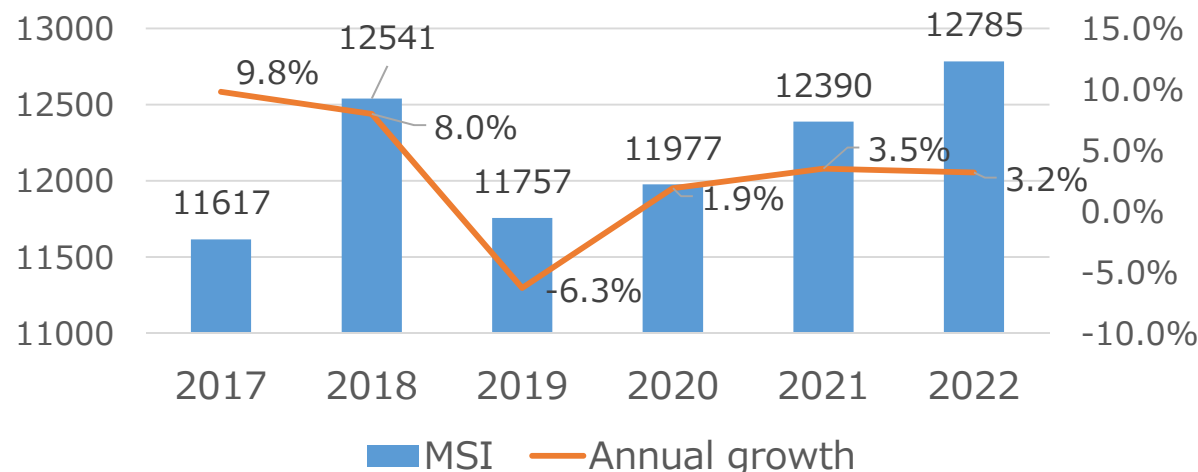
< ワールドワイドウエハ出荷数量 (MSI) >



◆ ウエハ出荷数量 ◆

2018年半ばを境に在庫調整のため減少傾向

< ワールドワイドウエハ出荷数量予測 (MSI) >



◆ ウエハ出荷数量予測 ◆

2020年から再び増加傾向も
コロナウィルス感染拡大による
経済停滞影響は未算入

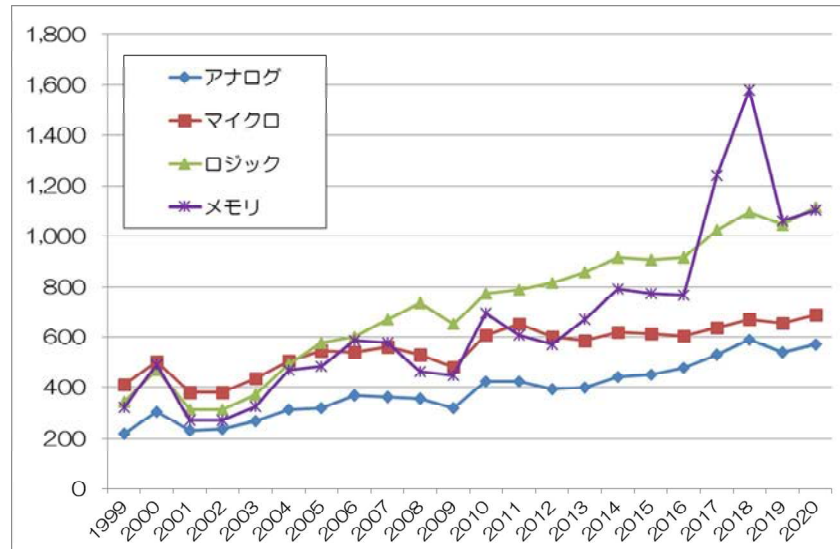
【出典 SEMI】

半導体業界の動向



< 半導体種別市場予測 >

出典：WSTS 2019年秋季半導体市場予測



- ◆ スマホ需要頭打ちから5Gへ
- ◆ 自動車販売不振
- ◆ データセンター投資抑制

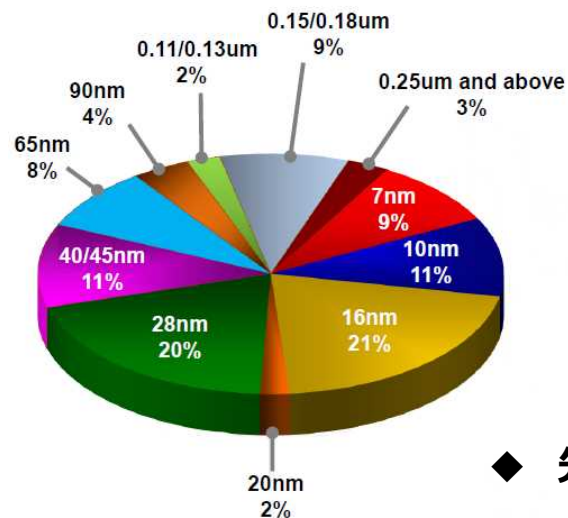


コロナの影響でDRAMのデータセンター需要増加理由を始め、各エンド顧客は生産を維持。

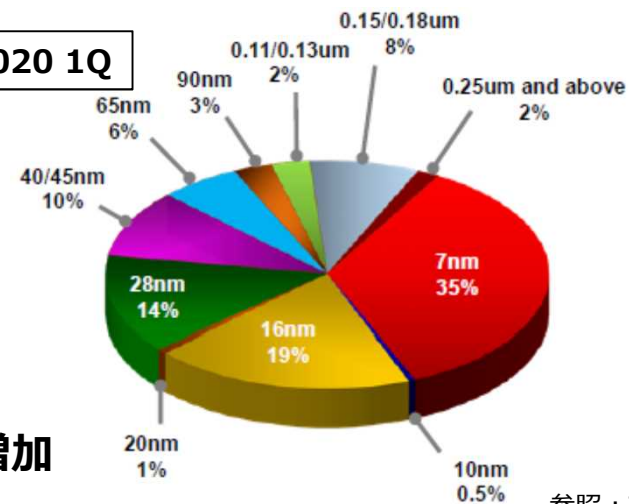


コロナ終息後への影響は未知数なれど、潜在需要への大きな影響は無いと見込む。

2018



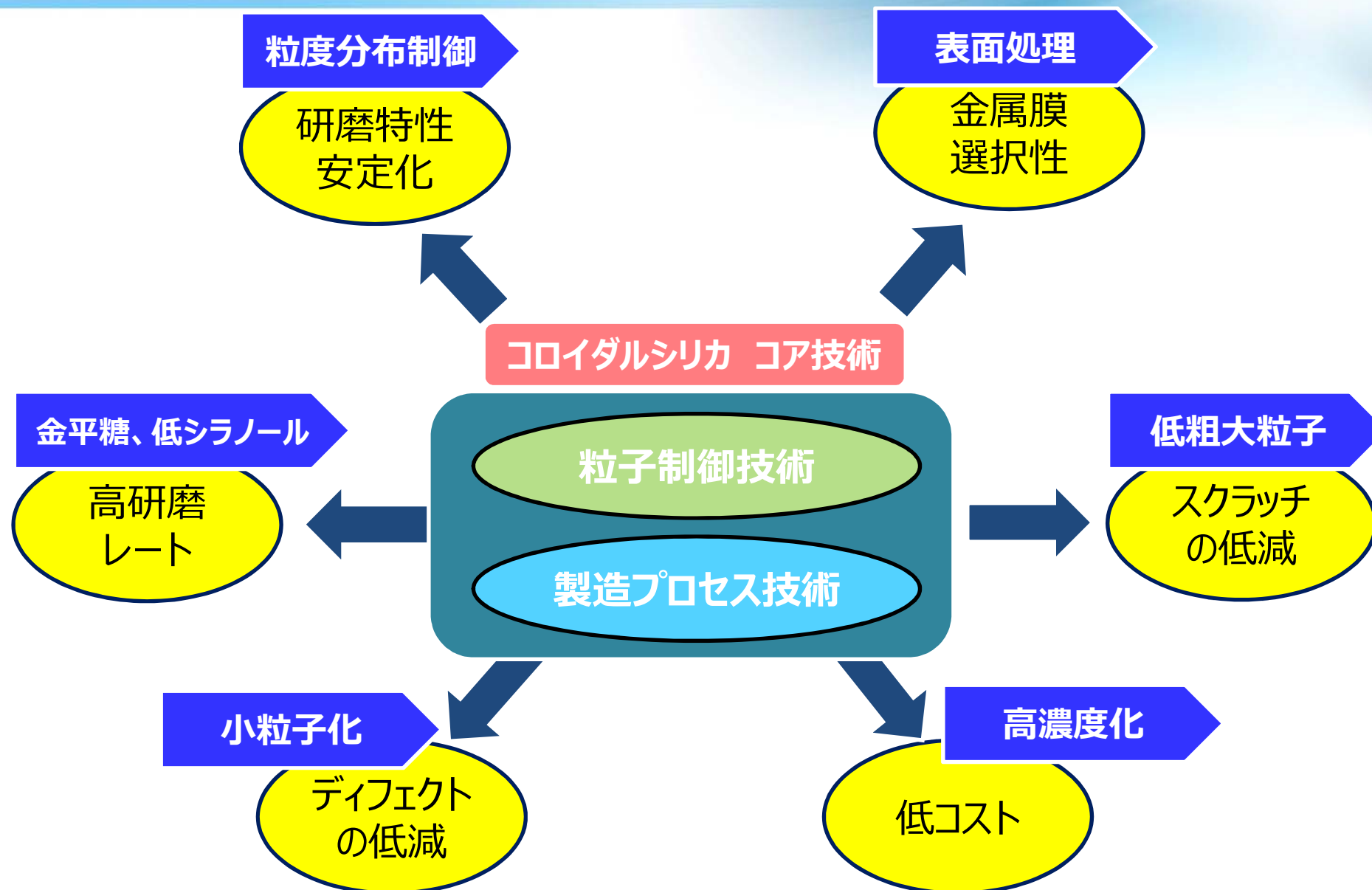
2020 1Q



◆ 先端ノードの増加

参照：TSMC開示資料

次世代半導体向けコロイダルシリカの開発



＜2019年度＞

- ・シリコンウエハは、出荷面積で2018年迄5年連続して過去最高を記録していたが2019年は米中貿易摩擦の影響を受け2017年同量となり対前年では▲ 8 %
- ・結果を受けてCMP市場は▲ 2 % (参照：WSTS資料、富士キメラ資料)
- ・Apple、AMDなど多くのCPU生産に於いて最先端7nmノード技術が採用
主要エンド顧客であるTSMCは、2018年対比で売上で+ 4 %の成長
(参照：TSMC Website)
- ・当社コロイダルシリカは、ロジックでの使用割合が多く、数量ベースで対前年+ 3 %

＜2020～22年度 見通し＞

- ・情報取扱量の拡大は確実に進行しており、AI・5 G需要の創出もあり、特にデータセンター向け需要の増加の下支えにより、中長期的な半導体需要は底堅い。
- ・スマートフォン、PC、TV、自動車などの製品成長率は鈍化傾向にあるものの、メモリー容量増加、IoT化によるデータトラフィック増加により、半導体デバイスの増加傾向は不変。
- ・この需要を満たすため、最先端半導体の生産においては、生産数量増加とともに、配線微細化が益々進み、併せて高平坦化など、CMPやコロイダルシリカに対する要求も益々高度化。

✓ 半導体市場の回復は、新型コロナの収束次第

- 米中貿易摩擦/中国経済低迷によるスマホ需要減少・市場飽和
スマホ出荷見通し台数の3年連続減少、乗用車の世界需要に大幅ブレーキ。
- 2019年は対前年12%以上のマイナス、2020年度は対前年8%のマイナスに下方修正。

✓ 2020年後半～2021年の見通し

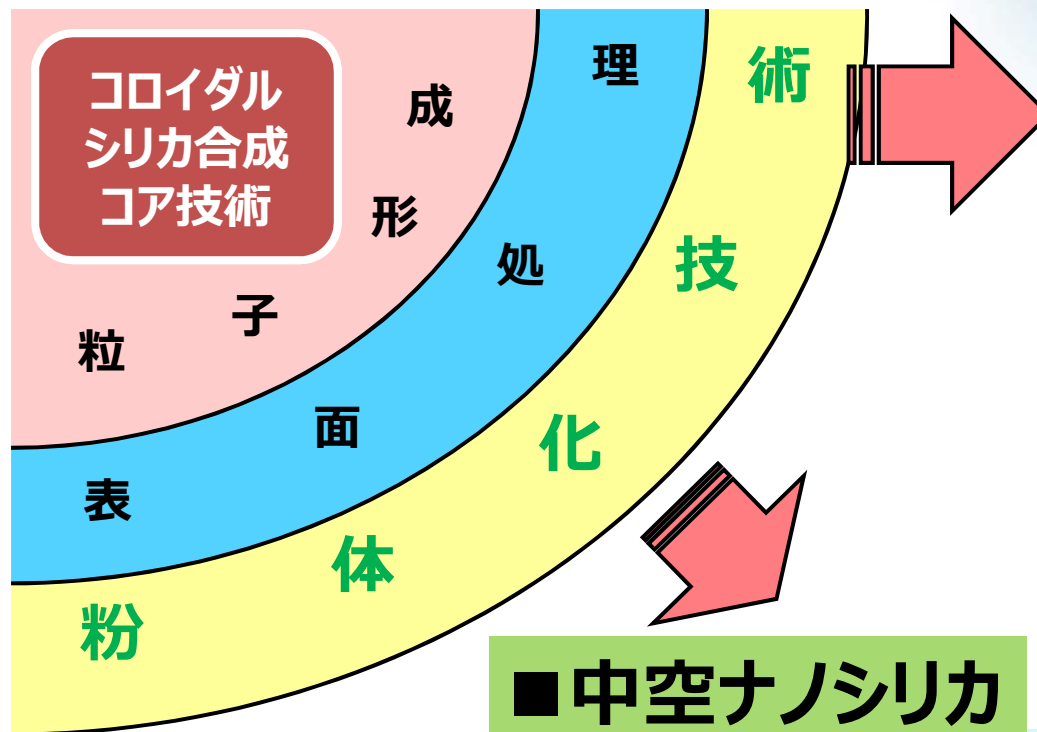
- 模様眺めから2020年後半から回復見通し
- 高性能ロジックを必要とする用途拡大 サーバー需要増加による高性能メモリ需要の増大
- CPUのフル生産が20年度以降も継続

✓ 米中貿易摩擦

- Huawei制裁；5G基地局、端末の禁輸方針が世界に波
- 追加関税；中国からのほぼ全ての輸入品について、追加関税を課徴

✓ 新型コロナウイルス

- テレワーク・働き方改革等に伴う、半導体需要が顕在化
- いったん、世界市場が正常化すれば、再び加速



■シリカナノパウダー

- ◇ 球状～異形状
- ◇ 多彩な粒子径
- ◇ 表面修飾技術



トナー用途



樹脂フィラー

■中空ナノシリカ

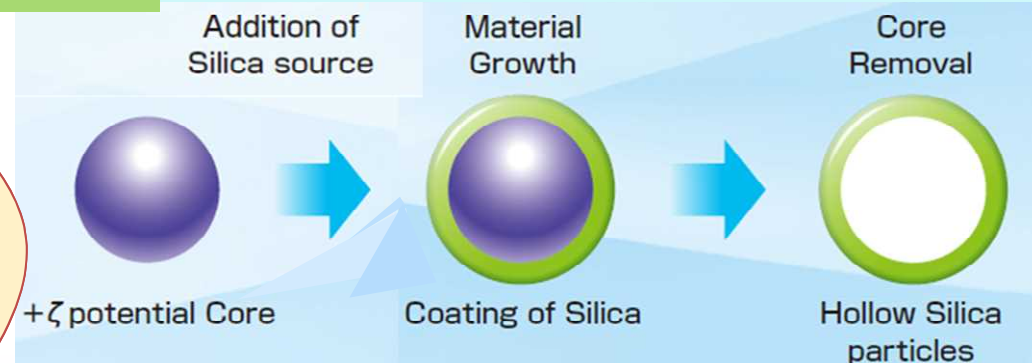
- ◇ 高い光学特性
- ◇ 表面修飾技術

オルガゾルタイプ

低反射材料



中空ナノシリカ製法イメージ





◆ シングル世代最先端半導体を支え◆
唯一無二の製品を提供する

顧客と密着した新製品開発
扶桑独自のプロセス技術を更に高度化
生産設備への積極投資

◆ コア技術をベースとした ◆
機能性材料製品の拡充

中空ナノシリカの多用途採用と量産上市
トナー向けナノパウダーの新規採用

* 2022年度 目標

I. 売上高

- ◆ 2019年度に対し20%増収 （200億円を目指す。）

II. 営業利益

- ◆ 2017年度の最高益を更新 （90億円を目指す。）

III. 償却前利益

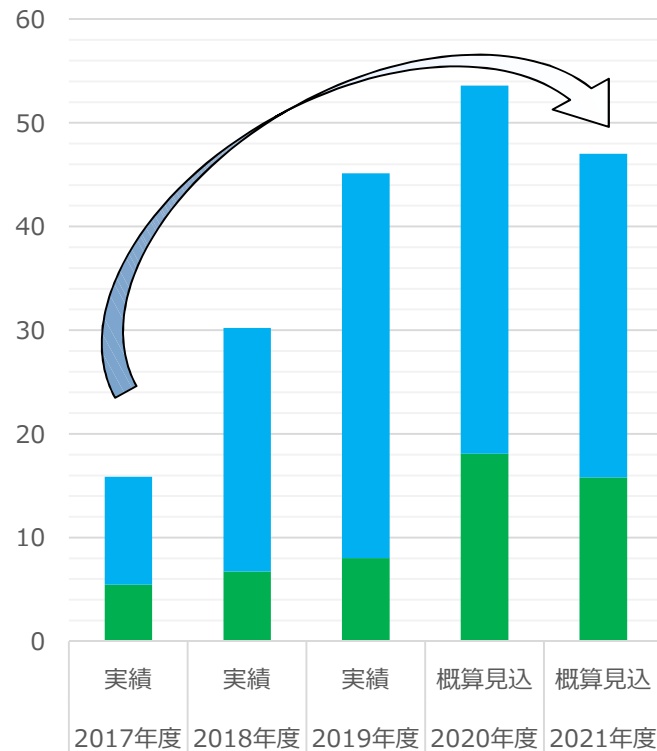
- ◆ 2019年度に対し25%の最高益（120億円を目指す。）

Ⅲ. 2021年3月期業績予想

2020年度をピークに減少

- ◆ 電子材料事業部門 : 2018年度第3Qより増加。2019年度最大に
- ◆ ライフサイエンス事業部門 : 2019年度第4Qより増加。2020年度最大に

(億円)



(単位：百万円)

セグメント	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 概算見込	2021年度 概算見込
ライフサイエンス事業部	545	671	802	1,810	1,580
電子材料事業部	1,040	2,352	3,710	3,550	3,120
共通	26	20	19	40	150
連結合計	1,613	3,044	4,532	5,400	4,850

■ ライフサイエンス事業部 ■ 電子材料事業部

* 工事完了時期、追加費用、計画変更、新規投資等に伴い、概算金額変動の可能性有り。

- ◆2020年以降の事業基盤構築・事業拡大に向けた、設備投資が完了
- ◆償却前利益額（EBITDA）の最高益更新を継続

計画 前提

- ・年間為替レート ¥ 108円想定
- ・半導体市況の不確定要因
- ・コロナウイルスの影響
- ・石油価格の急落

前年 実績

- ・年間為替レート ¥ 108円
- ・半導体市況調整局面
- ・仕入れ・原材料価格の低下
- ・法人税税額控除

	売上高		営業利益		当期純利益		償却前利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021.3 計画	42,200	2.2	8,150	△7.7	5,600	△20.2	13,550	1.4
2020.3 実績	41,310	△1.8	8,830	△4.9	7,014	1.9	13,362	8.4
2019.3 実績	42,074	4.6	9,283	△11.9	6,881	4.4	12,327	1.5

(%：対前年度通期増減率)

2021年3月期 通期業績予想

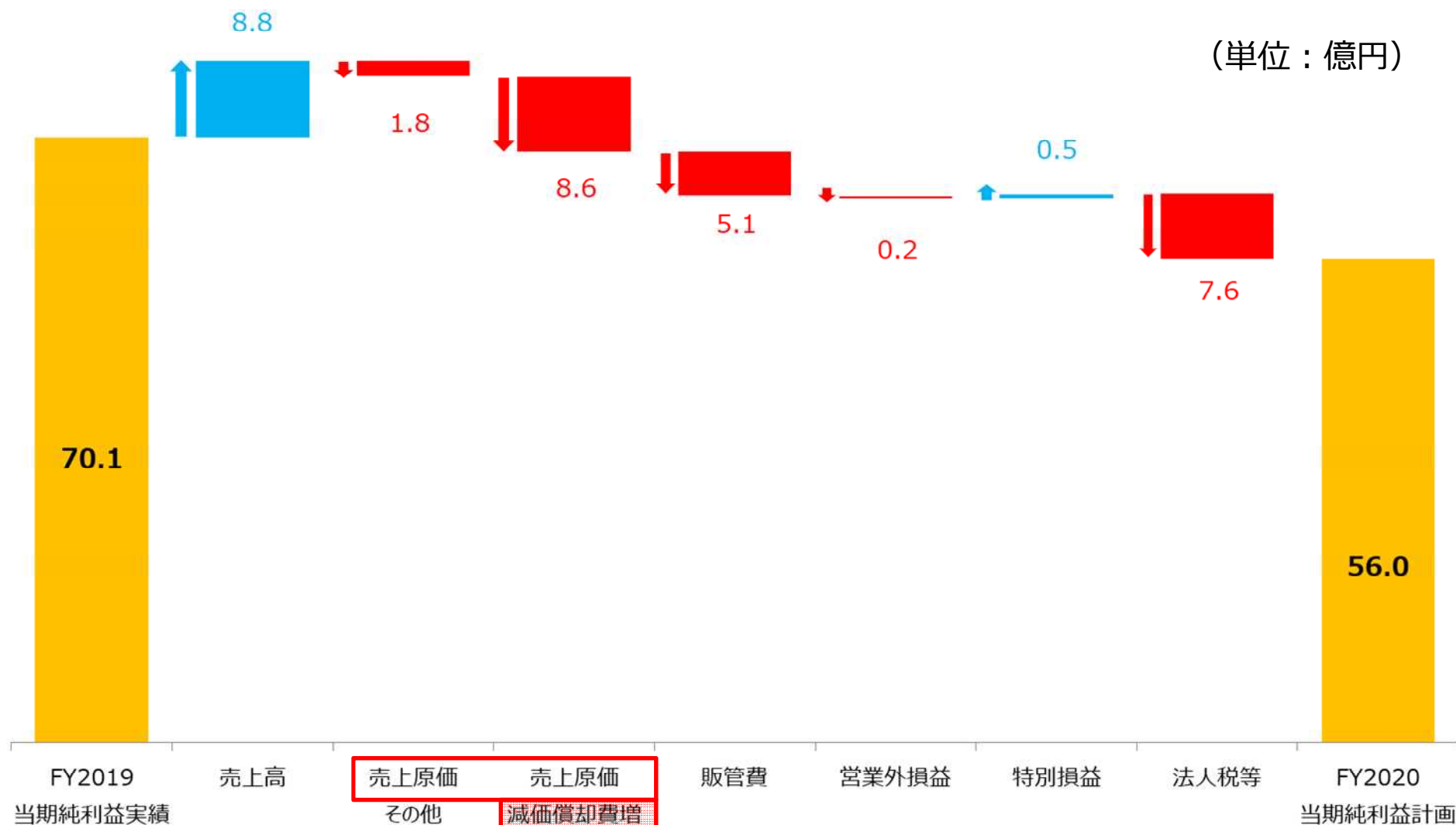


(単位：億円)	'20/3期 上期 (実績)	'20/3期 通期 (実績)	'21/3期上期 (計画)	'21/3期通期 (計画)
売上高	203.3	413.1	214.0	422.0
ライフサイエンス事業	123.2	241.2	125.0	248.0
電子材料および 機能性化学品事業	80.0	171.9	89.0	174.0
営業利益	43.6	88.3	44.0	81.5
ライフサイエンス事業	23.5	43.2	17.5	34.5
電子材料および 機能性化学品事業	26.1	57.4	34.0	61.0
(調整額)	△6.0	△12.4	△7.5	△14.0
経常利益	44.0	89.5	44.5	82.5
当期純利益	30.1	70.1	29.5	56.0
償却前営業利益	64.3	133.6	70.1	135.5
一株当たり当期純利益	84.8 円	197.5 円	83.0 円	157.7 円

2021年3月期計画-当期純利益増減要因



(単位：億円)

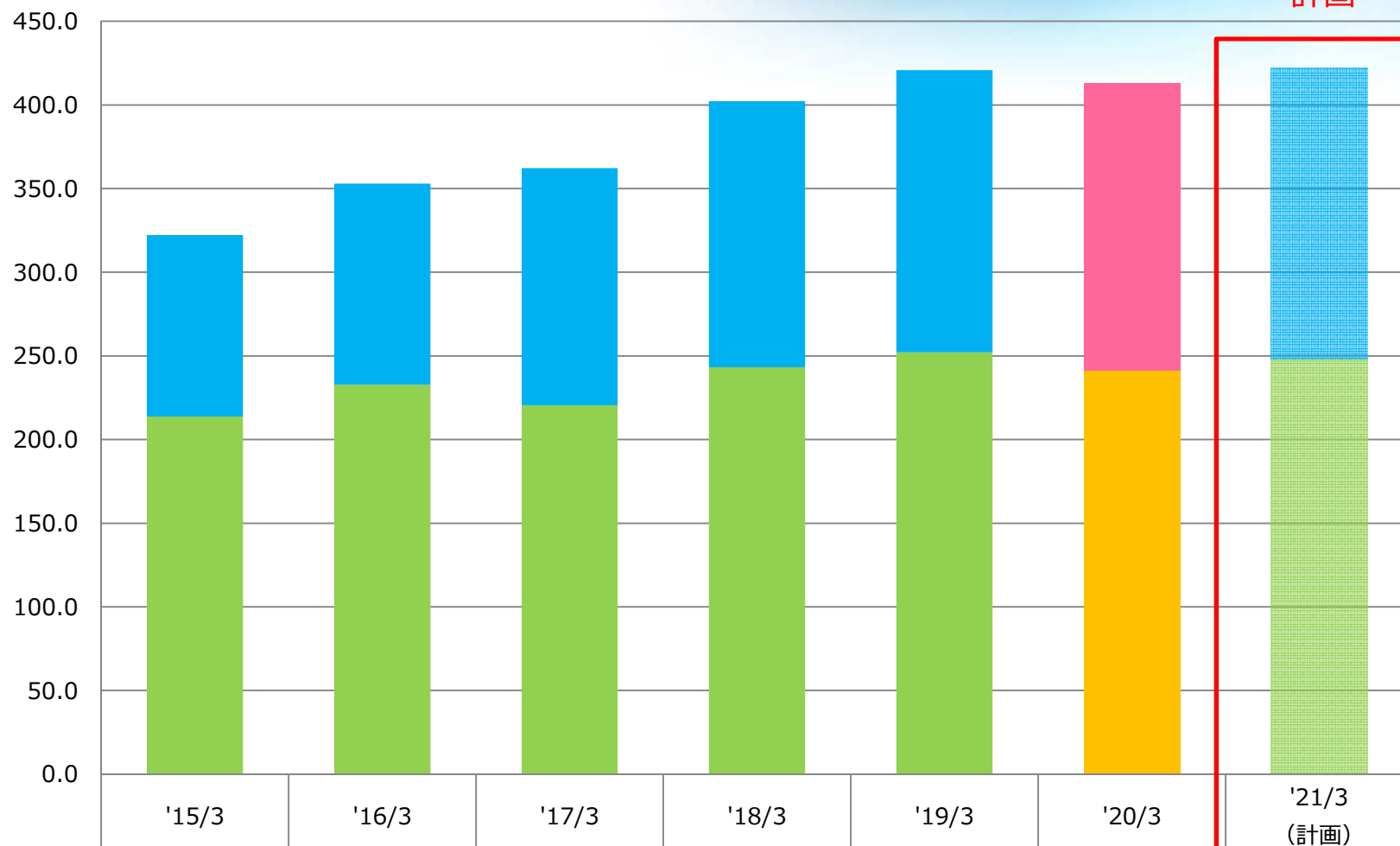


セグメント別売上高推移



(億円)

計画

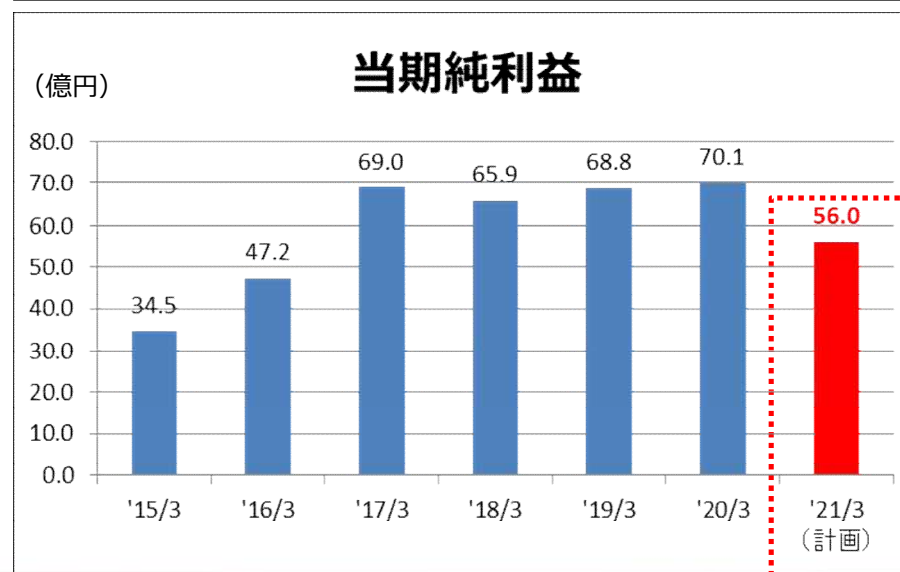
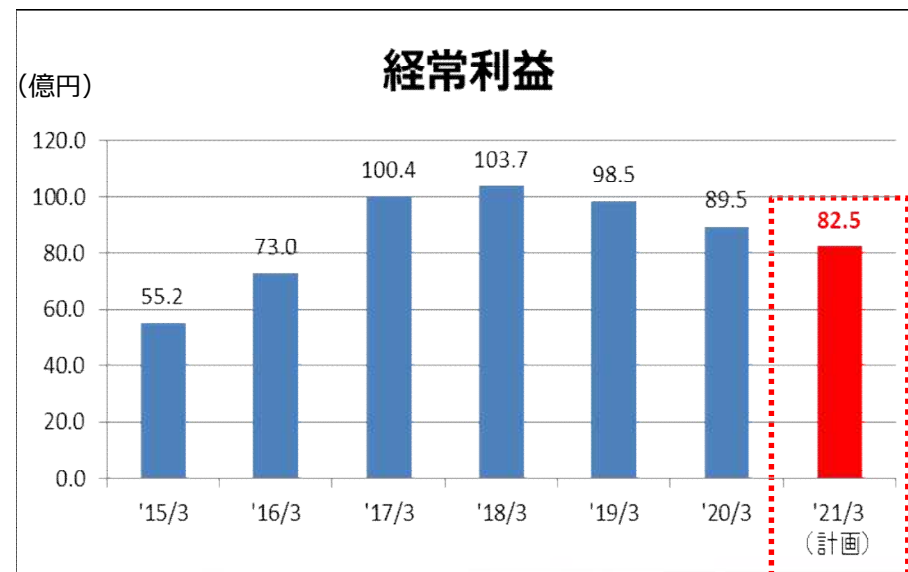
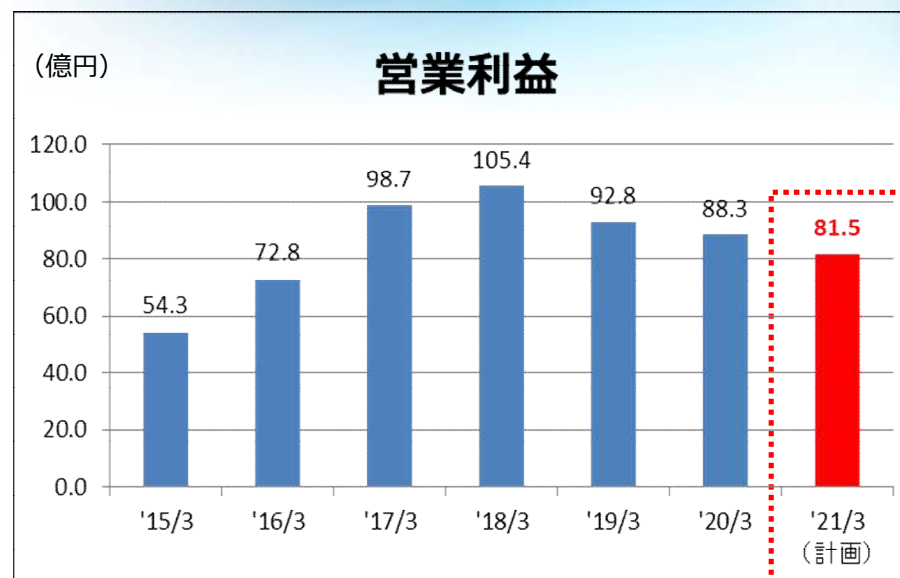
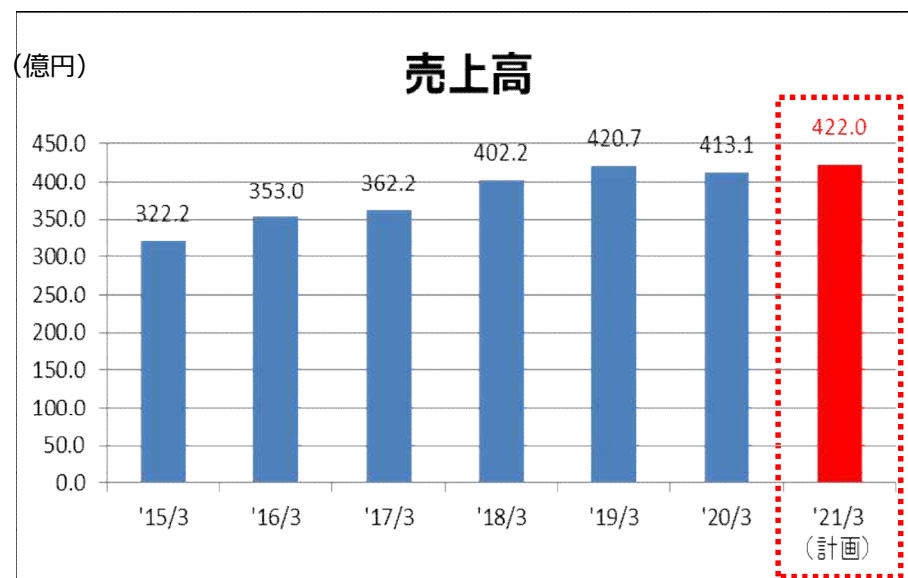


■ 電子材料および機能性化学品事業	108.5	120.1	141.7	159.0	168.7	171.9	174.0
■ ライフサイエンス事業	213.7	232.9	220.5	243.2	252.1	241.2	248.0

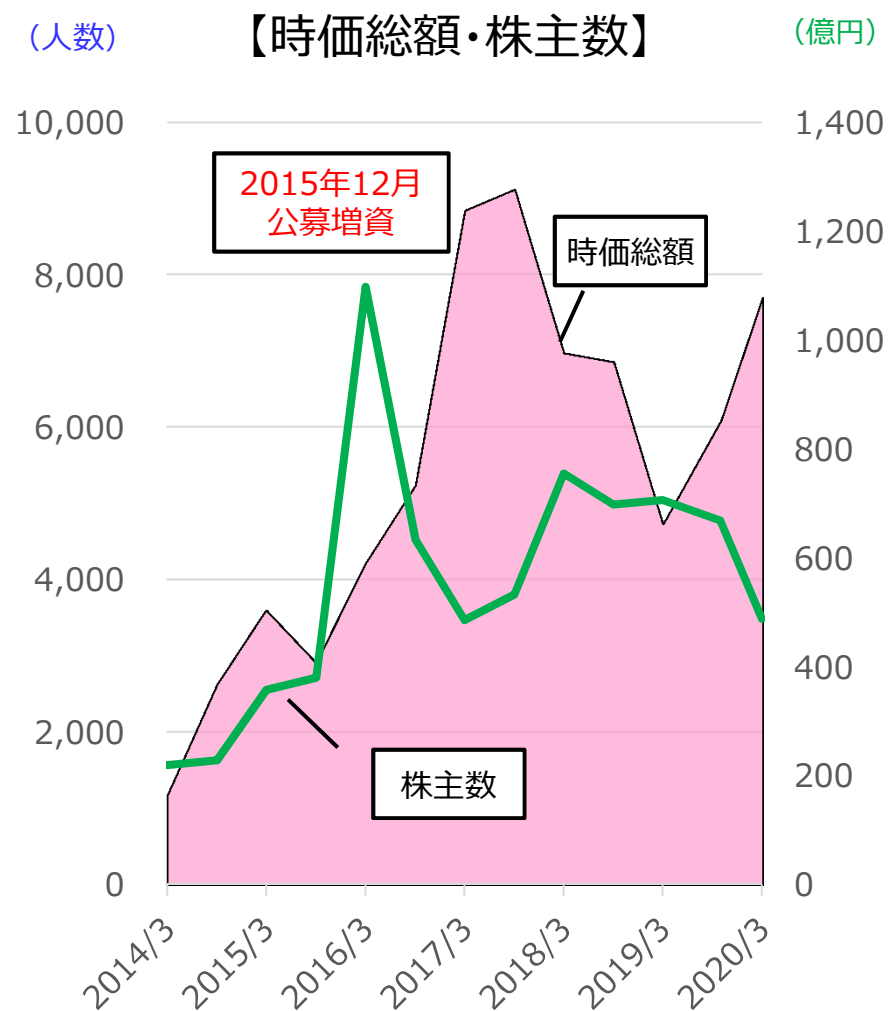
セグメント別営業利益推移



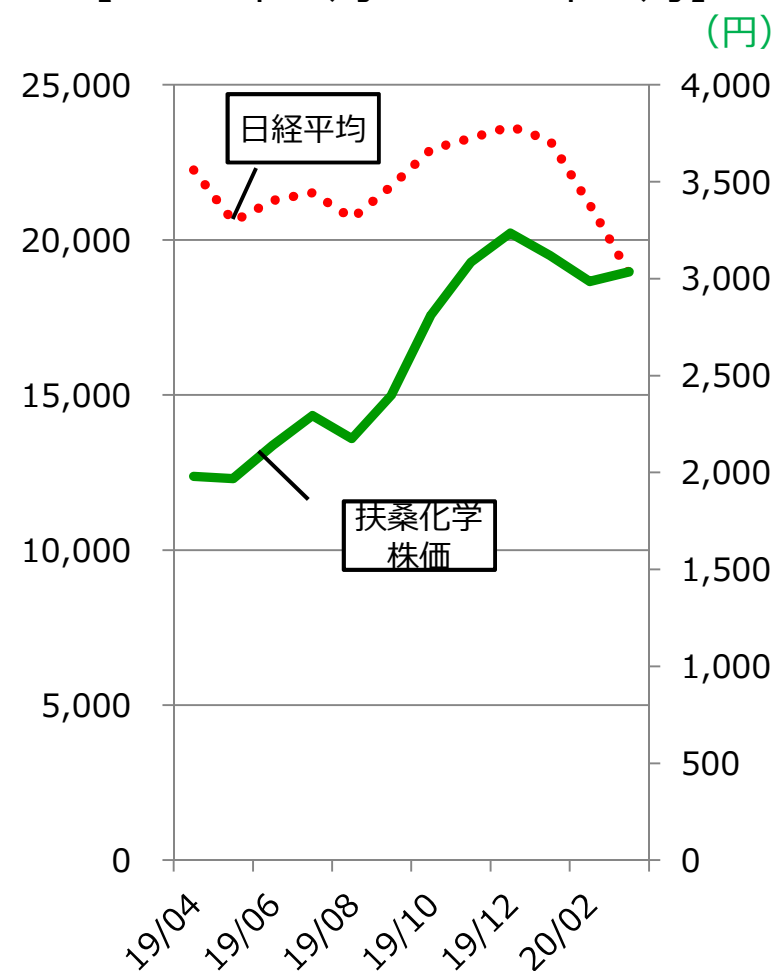
業績推移および計画



I. 株価推移

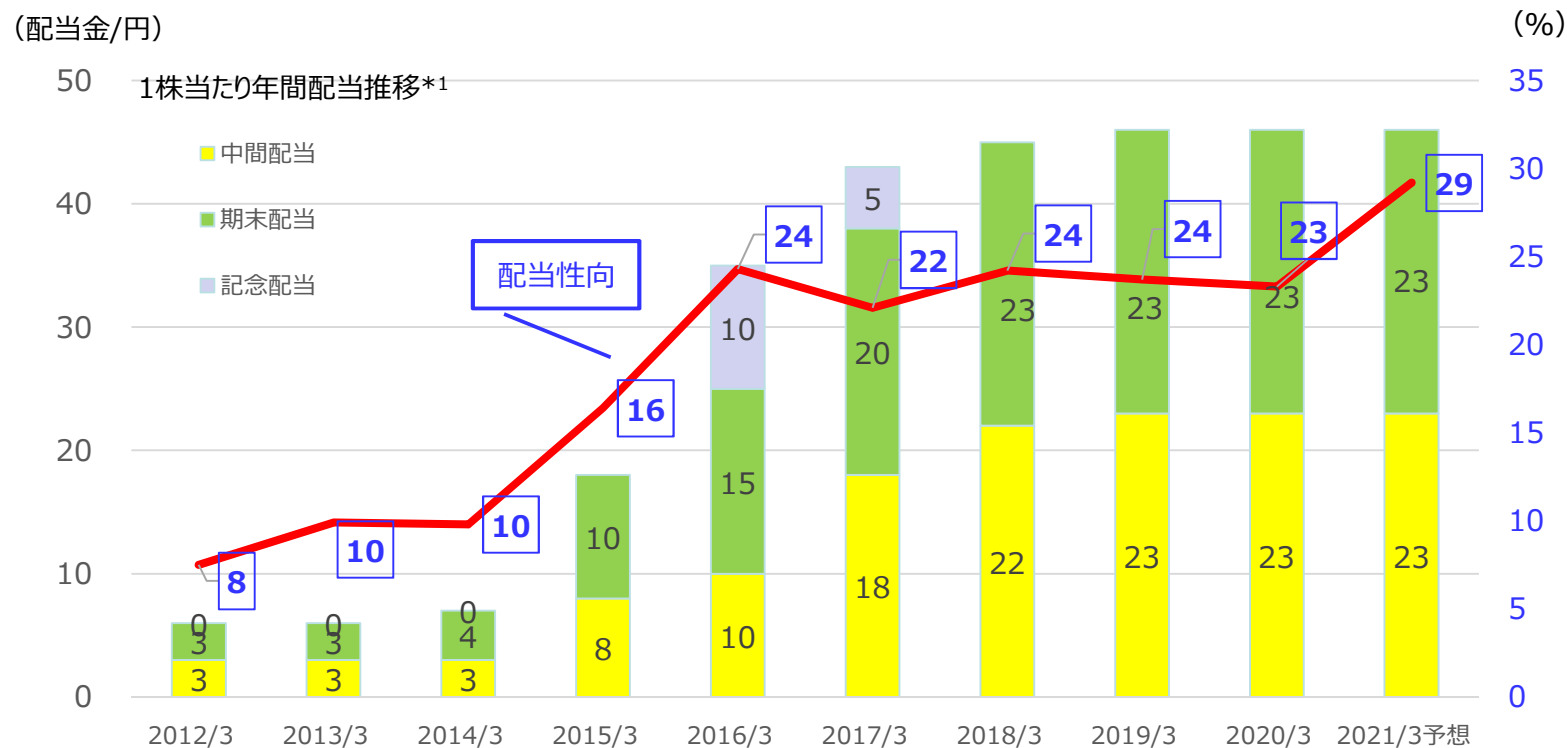


【2019年4月～2020年3月】



Ⅱ. 配当金

- 2020年3月期年間配当:2019年3月期と同額
- 2021年3月期年間配当:2020年3月期と同額予定
- 配当性向、配当利回りを考慮しつつ、安定的かつ継続的な配当実施



*1: 2014年10月1日付株式分割 (1:5) に伴い、調整

AED社内講習会実施

福知山市へのマスク寄付

地方創生応援税制



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

扶桑化学工業株式会社の SDGs に対する取り組み



ライフサイエンス事業部テーマ：
食品添加物の開発で食品廃棄ロスを削減する。



電子材料事業部テーマ：
超高純度コロイダルシリカの開発・生産で、デバイスの高精細化・高性能化に貢献し、社会インフラ構築に寄与する。



IV. Q & A

Q1. COVID-19による事業への影響

Q2. 原油価格の下落にともなうライフ事業への影響

Q3. 電子材料事業の今期計画と見通し

Q4. 今後の体制・経営戦略について

本資料に記載されている、将来の見通しに関する記述・数値は、グループ各社の現時点での入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、リスクや不確定な要因も含まれており、その達成を当社として約束するものではありません。

また、実際の業績等は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、為替動向等、様々な要因により、大きく異なる可能性があります。